科目名	社会福祉概論A	科目コード	W31021	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	大野　拓哉･松本　郁代･高橋　和幸		授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要	社会福祉の歴史・法制度・実践を柱としつつ、社会福祉を学ぶ上で最低限必要と考えられる事項を提示し、今後の勉学や将来の仕事の基礎作りを目指す。								
到達目標	時代とともに変化してきている社会福祉だからこそ、その基礎はしっかりおさえられなければなるまい。本講では、奇をてらうことなく、必要不可欠な知識の確実な定着をはかる。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会福祉と法①	法令理解の基礎	担当：大野
第2回	社会福祉と法②	わが国社会福祉法制の歴史	担当：大野
第3回	社会福祉と法③	日本国憲法、社会福祉法およびその他の関連法律	担当：大野
第4回	「社会福祉法」前史①	「社会事業」の成立～「社会事業法」の制定	担当：大野
第5回	「社会福祉法」前史②	戦後社会福祉法制の発足～「社会福祉事業法」の制定	担当：大野
第6回	日本における社会福祉の歴史①	前近代における慈善事業・救済事業	担当：松本
第7回	日本における社会福祉の歴史②	近代における慈善事業・救済事業	担当：松本
第8回	日本における社会福祉の歴史③	近代における慈善事業及び慈善事業組織化と救済事業	担当：松本
第9回	「社会福祉法」①	社会福祉法の目的と福祉サービスの基本的理念	担当：大野
第10回	「社会福祉法」②	「社会福祉事業」の定義	担当：大野
第11回	「社会福祉法」③	福祉事務所と所掌事務	担当：大野
第12回	「社会福祉法」④	「社会福祉法人」制度の誕生	担当：大野
第13回	小括	第１回～第12回までのまとめと振り返り	担当：松本・大野
第14回	保健医療福祉活動	自分の分野のことだけでなく保健・医療・福祉専門職がチームを組んで、問題を解決するためにサービスを組み合わせるという手法が重視される。具体例も合わせて解説する。	担当：高橋
第15回	患者と家族を支える社会福祉制度と諸サービス	患者と家族を支える社会福祉制度とサービスに繋ぐ「ソーシャルワーカー」の役割について解説する。	担当：高橋

評価方法及び評価基準	試験（松本・大野）およびレポート（高橋）。
教材 教科書 参考書	『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）、『社会福祉用語辞典』（中央法規出版）
留意点	受講生には、地味なことでも着実に続けていく努力と忍耐を求めたい。

科目名	社会福祉概論B	科目コード	W31022	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	大野　拓哉・松本　郁代・高橋　和幸		授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要	社会福祉の歴史・法制度・実践を柱としつつ、社会福祉を学ぶ上で最低限必要と考えられる事項を提示し、今後の勉学や将来の仕事の基礎作りを目指す。								
到達目標	時代とともに変化してきている社会福祉だからこそ、その基礎はしっかりおさえられなければなるまい。本講では、奇をてらうことなく、必要不可欠な知識の確実な定着をはかる。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	日本における社会福祉の歴史④	感化救済事業および慈善事業	担当：松本
第2回	日本における社会福祉の歴史⑤	現代における社会事業①	担当：松本
第3回	日本における社会福祉の歴史⑥	現代における社会事業②	担当：松本
第4回	日本における社会福祉の歴史⑦	現代における社会事業③	担当：松本
第5回	社会福祉法⑤	「社会福祉法人」の設立と組織	担当：大野
第6回	社会福祉法⑥	「社会福祉法人」の運営	担当：大野
第7回	社会福祉法⑦	社会福祉事業	担当：大野
第8回	社会福祉法⑧	福祉サービスの適切な利用	担当：大野
第9回	社会福祉法⑨	日常生活自立支援事業と成年後見制度	担当：大野
第10回	社会福祉法⑩	地域福祉の推進①～地域福祉計画と共同募金	担当：大野
第11回	社会福祉法⑪	地域福祉の推進②～社会福祉協議会	担当：大野
第12回	社会福祉をめぐる法的問題	ボランティアの法的責任	担当：大野
第13回	小括	第１回～第12回のまとめと振り返り	担当：松本・大野
第14回	社会福祉の領域の広がり①	CiNiiやメデイカルオンラインによる情報検索で研究の広がりに気づく	担当：高橋
第15回	社会福祉の領域の広がり②	各省庁の発行する白書に登場する社会福祉と密接な関係にある施策から感じ取る	担当：高橋

評価方法及び評価基準	試験（松本・大野）およびレポート（高橋）
教材教科書参考書	『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）、『社会福祉用語辞典』（中央法規出版）
留意点	受講生には、地味なことでも着実に続けていく努力と忍耐を求めたい。

科目名	キリスト教社会福祉論	科目コード	W31002	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	柘植　秀通		授業形態	講義	単独	
授業の概要	社会福祉の中には本来、思想性が強く必要とされます。それは、人間をどう見るか、人間の幸福とはいかにあるべきものか、さらに、そのような人間にいかに向き合っていくかといった宗教性を持った課題です。これを、弘前学院が掲げるキリスト教主義の視点から考え、特にキリスト教と社会福祉の本質的結びつきについて考える。 　特に、福祉実践の基本となる「愛」とは何か。それを、現実にどう対応させていけばいいか、ということを考えていくことがこの教科の課題であり、特に聖書にもとづいて福祉をどう考えていくかを学ぶ。								
到達目標	聖書にもとづく愛にたつ実践とは何かを学び、現実の実践の中でその愛をあらわすことができるようになる。ということが最終目標ですが、この授業においてはその基礎として、まず聖書に示されたキリストの愛について知り、実践にいかすにはどうすればいいかを考える者となることが目標です。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	授業の概要に関する解説	解説
第2回	キリスト教に関する基本的理解	キリスト教とはなんであるか、ということに関する基本的問い直し。	講義
第3回	社会福祉に関する基本的理解１	社会福祉とは何かについて、演習を通しての理解	演習
第4回	社会福祉に関する基本的理解２	演習を通して学んだことの発表と、そのことに関する講義	演習・講義
第5回	社会福祉のキリスト教的基礎	キリスト教の他者理解と、他者の存在への関わりに関する基礎的学び。	講義
第6回	キリスト教的基礎に則った実践者	ﾏｻﾞｰﾃﾚｻを例として、他者存在への関わりのあり方について考える。	映像視聴・講義
第7回	愛に関する講義	キリスト教的な愛とは何かについて、マザーテレサを引きながら、さらに深く考える。	講義
第8回	神の愛と人の愛に関する講義	神の愛と人間の愛との相違について考察し、人間の愛がいかに神の愛となるかについて学ぶ。	講義
第9回	人の価値に関する講義	全ての人の価値の源泉、人はなぜ愛されるに足る存在であるかのキリスト教的根源についての考察。	講義
第10回	人の尊厳が台無しにされている現状の認識１	難民の映像を通して、いかに尊厳ある存在である人が、無価値なものとして扱われてきたか、また扱われているかの現状認識	映像視聴・講義
第11回	人の尊厳が台無しにされている現状の認識２	個人に焦点を当てて、貧困を通して如何に人の尊厳が傷つけられているかを学ぶ。	映像視聴・講義
第12回	召命について	悲惨な現状を認識したうえで、自分が、どのような場・人の支援に召されているかという概念について考え、召されるということについて講義考察を行う。	講義
第13回	キリスト教社会福祉の実践家について	キリスト教社会福祉の実践家を例を挙げて考察する。	映像視聴・講義
第14回	召命について２	自分がどのような場・実践に召されているかを、ツールを使って考察し、自らの召命について考える。	演習
第15回	人間の尊厳についての考察	自分が出ていく場で、どのような人と会っても、その人の価値・無限の尊厳を信じることのできる根本について考察する。	演習

評価方法及び評価基準	授業への参加度５０％　レポート５０％によって行う。 レポートは、参考文献を明示することはもちろん重要だが、それ以上に自らがどのように考えるかを明示できることを重視する。
教材 教科書 参考書	聖書（新共同訳）
留意点	授業の中での発言を重視し、参加度を重要視する。

科目名	社会福祉原論A	科目コード	W31003	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	松本　郁代		授業形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修							
授業の概要	社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、現在の社会福祉政策を学ぶ								
到達目標	社会福祉政策および社会福祉の制度を理解する。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会福祉とは何か	社会福祉と「福祉」の違い	
第2回	ソーシャルワークとは何か	社会福祉の一領域であるソーシャルワークの存在理由を問う	
第3回	現代社会と社会福祉	現代社会を生み出した社会変動	
第4回	社会福祉政策と社会問題①	社会福祉政策の対象としての社会問題	
第5回	社会福祉政策と社会問題②	社会福祉の対象としての生活問題	
第6回	社会福祉政策の現代的課題	社会的排除と社会的包摂、社会的バルネラビリティ	
第7回	社会福祉の歴史を学ぶ前に	社会福祉を歴史的に理解する意義	
第8回	欧米の社会福祉の歴史①	欧米の前近代における社会福祉	
第9回	欧米の社会福祉の歴史②	欧米の近代における社会福祉	
第10回	欧米の社会福祉の歴史③	欧米の現代における社会福祉①	
第11回	欧米の社会福祉の歴史④	欧米の現代における社会福祉②	
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①	社会福祉政策の論点	
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②	社会福祉における普遍主義・選別主義	
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③	自己決定とパターナリズム、スティグマ・エンパワーメント・ジェンダー	
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④	社会福祉政策の国際比較、福祉国家	

評価方法及び評価基準	試験（客観式・短答式）のみで評価
教材 教科書 参考書	中央法規出版編（2012）『社会福祉用語辞典　6訂』中央法規出版、井村圭壮・藤原正範編（2007）『日本社会福祉史』勁草書房、成清美治・加納光子編著(2011)『イントロダクションシリーズ1　現代社会と福祉<第2版>』学文社、ミネルヴァ書房編集委員会編集部（2018）『社会福祉小六法2018』ミネルヴァ書房
留意点	遅刻・私語厳禁

科目名	社会福祉原論B	科目コード	W31004	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	松本　郁代		授業形態	講義		単独
授業の概要	社会福祉理論と社会事業理論のつながりを確認すること								
到達目標	戦前の社会事業理論が、どのように現在の社会福祉政策や理論につながってくるのか、その歴史的系譜を理解すること。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会福祉政策と関連政策	社会福祉政策と教育・労働・住宅・医療の各政策	
第2回	ソーシャルワークと社会福祉政策	制度論と援助論の統合	
第3回	社会福祉政策・理論研究と社会福祉原論研究	社会福祉の独自性？	
第4回	社会福祉実践の歴史的系譜	日本における社会福祉援助の源流	
第5回	社会事業理論を学ぶにあたって	社会事業理論と社会福祉理論の連続性	
第6回	社会事業理論としてのケースワーク論	岡本民夫（1973）『ケースワーク研究』ミネルヴァ書房	
第7回	社会事業理論①	三好豊太郎	
第8回	社会事業理論②	小澤　一	
第9回	社会事業理論③	福山政一	
第10回	社会事業理論④	竹内愛二	
第11回	社会事業理論⑤	大河内一男・風早八十二	
第12回	社会福祉理論①	孝橋正一・岡村重夫	
第13回	社会福祉理論②	新政策論	
第14回	社会福祉理論③	運動論の源流	
第15回	社会福祉理論の展望	これからの社会福祉理論	

評価方法及び評価基準	社会福祉原論Ａと同様
教材 教科書 参考書	社会福祉原論Ａと同様
留意点	社会福祉原論Ａと同様

科目名	ソーシャルワーク総論Ａ	科目コード	W31005	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	小川　幸裕		授業形態	講義	単独	

授業の概要	１．社会福祉士の役割について学ぶ。 ２．相談援助の定義と構成要素について学ぶ。 ３．ソーシャルワークの形成過程について学ぶ。 ４．相談援助の理念について学ぶ。
到達目標	１．ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 ２．社会福祉士の役割と意義を説明できる。 ３．相談援助の定義と構成要素について説明できる。 ４．ソーシャルワークの形成過程について説明できる。 ５．相談援助の理念について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	１）授業の概要および到達目標 ２）評価方法および評価基準 ３）留意点	講義
第2回	社会福祉士の役割と意義	１）社会福祉士および介護福祉士法における位置づけ ２）現代の社会福祉士に求められる専門性 ３）精神保健福祉士の役割と意義	講義
第3回	現代社会と地域生活	１）現代社会とは ２）地域での生活、地域や家庭内で起きていること ３）人々のせいかつとソーシャルワーカーとチームアプローチの必要性	講義 レポート課題
第4回	ソーシャルワークの概念	１）ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 ２）その他主だった定義	講義
第5回	ソーシャルワークの構成要素	１）クライエント ２）ニーズ ３）ソーシャルワーカー、社会資源	講義
第6回	ソーシャルワークの源流	１）ソーシャルワークの前史 ２）事前組織協会、セツルメント ３）YMCA、YWCAとボーイスカウト・ガールスカウト	講義 小テスト
第7回	ソーシャルワークの基礎確立期（～１９３０年代）	１）ケースワークの確立 ２）専門家するソーシャルワーク（１９２０年代） ３）世界恐慌・大不況とソーシャルワーク	講義
第8回	ソーシャルワークの発展期（１９４０年代～１９５０年代半ば）	１）診断主義派と機能主義派 ２）グループワークの形成、コミュニティ・オーガニゼーション ３）日本での発展	講義
第9回	ソーシャルワークの展開期（１９５０年代半ば～１９６０年代以降）	１）社会不安とソーシャルワーク ２）パールマンの問題解決アプローチと「ケースワークは死んだ」 ３）ソーシャルワークのモデルの乱立	講義
第10回	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	１）ソーシャルワークの統合化とジェネラリストアプローチの成立 ２）ジェネラリストアプローチからジェネラリスト・ソーシャルワークへ	講義 レポート課題
第11回	ソーシャルワーク実践と価値	１）専門職として共有する価値と個人の価値観 ２）ソーシャルワーク実践の判断と価値 ３）ソーシャルワーク専門職として身につける価値	講義
第12回	ソーシャルワーク実践と権利擁護	１）権利擁護が必要とされる背景と深刻な人権侵害の顕在化 ２）権利擁護の概念と態様 ３）ソーシャルワーク実践としての権利擁護	講義
第13回	クライエントの尊厳と自己決定	１）自己決定 ２）自立支援 ３）エンパワメントとストレングス視点	講義 小テスト
第14回	ノーマライゼーションと社会的包摂	１）地域生活支援という視座 ２）ノーマライゼーション ３）社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）	講義
第15回	まとめ	１）相談援助の定義と構成要素 ２）相談援助の形成過程 ３）相談援助の理念	講義

評価方法及び評価基準	１．定期試験50%、小テスト20%、レポート20%、リアクションペーパー10% ２．定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、社会福祉士の意義・役割、ソーシャルワークの形成過程、相談援助の構成要素および理念について択一式問題などで確認する。 ３．小テスト：２回程度予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。また、事例についての自分の意見を記載する論述式の設問も出す。 ４．レポート：ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ５．リアクションペーパー：講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価対象とする。配点は１回１点とし10回の記載を課す。各項目において半分以上記載されていない場合は評価対象としない。 ６．ノート：講義での板書やメモおよびリアクションペーパーで記載した疑問点について調べてきた内容の記載を課し、評価対象とする。 ※　リアクションペーパーやレポートなどにおいては、文字数不足、誤字脱字などについては減点の対象とする。
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』中央法規
留意点	１．教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 ２．社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。

科目名	ソーシャルワーク総論B	科目コード	W31006	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	小川　幸裕		授業形態	講義	単独	

授業の概要	1．専門職倫理と倫理的ジレンマについて学ぶ。 2．総合的かつ包括的な相談援助の全体像および理論を学ぶ。 3．相談援助にかかる専門職の概念と範囲を学ぶ。 4．総合的かつ包括的な相談援助の実際を学ぶ。
到達目標	1．ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 2．専門職倫理の概念を踏まえソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマについて説明できる。 3．総合的かつ包括的な相談援助の理論について説明できる。 4．相談援助の概念と範囲および理念について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	1）授業の概要および到達目標 2）評価方法および評価基準 3）留意点	講義
第2回	専門職倫理と倫理的ジレンマ（1）	1）専門職倫理の概念 2）倫理綱領の意義と内容	講義
第3回	専門職倫理と倫理的ジレンマ（2）	1）ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ 2）倫理的ジレンマにおける価値的判断過程	講義 レポート課題
第4回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像（1）	1）「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景 2）地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 3）４つのパラダイムシフト	講義
第5回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像（2）	1）地域を基盤としたソーシャルワークの８つの機能 2）個と地域の一体的支援	講義
第6回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論	1）ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 2）ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	講義 小テスト
第7回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲（1）	1）相談援助専門職の概念 2）専門職の成立条件 3）ソーシャルワークの職能団体の役割	講義
第8回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲（2）	1）相談援助専門職の範囲 2）諸外国の動向	講義 小テスト
第9回	総合的かつ包括的な相談援助（1）	1）総合的かつ包括的な相談援助 2）個と地域の一体的支援機能・予防機能 3）事例・解説	講義
第10回	総合的かつ包括的な相談援助（2）	1）新しいニーズへの対応 2）「総合的包括的な相談援助」における位置づけ 3）事例・解説	講義
第11回	総合的かつ包括的な相談援助（3）	1）総合支援機能 2）「総合的包括的な相談援助」における位置づけ 3）事例・解説	講義
第12回	総合的かつ包括的な相談援助（4）	1）多問題家族への支援 2）「総合的包括的な相談援助」における位置づけ 3）事例・解説	講義 レポート課題
第13回	総合的かつ包括的な相談援助（5）	1）権利擁護機能 2）「総合的包括的な相談援助」における位置づけ 3）事例・解説	講義
第14回	総合的かつ包括的な相談援助（6）	1）社会資源開発機能 2）「総合的包括的な相談援助」における位置づけ 3）事例・解説	講義
第15回	まとめ	1）総合的かつ包括的な相談援助の全体像 2）総合的かつ包括的な相談援助の実際	講義

評価方法及び評価基準	1．定期試験50%、小テスト20%、レポート20%、リアクションペーパー10% 2．定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、専門職倫理とジレンマ、総合的かつ包括的な相談援助の理論、専門職の概念と範囲について択一式問題などで確認する。 3．小テスト：2回程度予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。また、事例についての自分の意見を記載する論述式の設問も出す。 4．レポート：ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し評価対象とする。 5．リアクションペーパー：講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価対象とする。配点は１回１点とし10回の記載を課す。 6．ノート：講義での板書やメモおよびリアクションペーパーで記載した疑問点について調べてきた内容の記載を課し、評価対象とする。 ※ 振り返りシートやレポートなどにおいては、文字数不足、誤字脱字などについては減点の対象とする。
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』中央法規
留意点	1．教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2．社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。

科目名	介護概論	科目コード	W31007	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	小野　綾･川村 泰子･高田 まり子		授業形態	講義		オムニバス
	社会福祉士指定科目	必修							

授業の概要	介護の概念や理念について理解し、様々な背景をもつ高齢者の介護の目的と役割を学ぶ。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について学ぶ。介護は人格を持つ対象に関わる行為であることを理解し、少子高齢社会における高齢者の生活の質を確保するために必要な知識と技術を学ぶ。
到達目標	1. 高齢者の特徴や健康問題を理解する。 2. 介護の目的と役割を理解できる。 3. 介護過程における介護の技法を理解する。 4. 介護予防の目的と対策を理解する。 5. 対象の背景に目を向け、生活の質の確保のために必要な援助を考えることができる。 6. 対象の尊厳を守るための支援を理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会福祉と介護	社会福祉士に求められる介護の理解について	小野
第2回	介護の理念	介護の目的と手段について	小野
第3回	介護の対象の理解	人間の理解について	小野
第4回	介護の対象の理解	高齢者の理解について	小野
第5回	少子高齢社会と高齢者	国内外における少子高齢化と問題について	小野
第6回	高齢者支援の方法	多面的アセスメントについて	小野
第7回	介護過程の概要	介護の問題解決過程、介護過程と社会福祉の関係	髙田
第8回	介護過程の展開技法	アセスメントの視点と対象、「事実」と情報、展開の実際	髙田
第9回	介護の専門性と技術	専門職の特徴、技術と技能、介護の技術	髙田
第10回	介護予防の概念	現在行われている介護予防対策と今後の展望について	小野
第11回	認知症高齢者と介護	認知症の理解と要介護者・家族への対応について	小野
第12回	健康上のリスクを抱える高齢者	高齢者が抱える健康・介護の課題と支援	川村
第13回	高齢者と家族	高齢者の介護を行っている家族への援助方法	川村
第14回	高齢者と地域社会	高齢者を支える地域のシステム	川村
第15回	まとめ	まとめ	

評価方法及び評価基準	平常点評価10%、定期試験90%で評価する。毎回「ミニレポート」の記載を求める。「ミニレポート」の内容や受講態度等を総合して平常点とする。到達目標に対応して、介護に関する基本概念や語句の理解力、高齢者の支援に対する考察力を問う試験とする。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会　編集、新・社会福祉士養成講座　13　高齢者に対する支援と介護保険制度、中央法規出版
留意点	全出席を望む

科目名	介護実技	科目コード	W31008	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	髙田 まり子,川村 泰子,幸山 靖子,阿部 智美		授業形態	実技		複数

授業の概要	社会福祉を基盤とした介護を実践するために、必要な知識を学習し、生活支援技術を修得する。
到達目標	１．介護技術に関連する基礎的知識を実践方法を理解する。 ２．生活支援技術を実践し、修得する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	援助関係を築く基本と コミュニケーション	１．援助的人間関係とは ２．コミュニケーションの基本と効果的な方法	講義 （幸山・阿部）
第2回	一般状態の観察	１．介護における観察の意義 ２．一般状態の観察方法	講義 （幸山・阿部）
第3回	高齢者の自立支援と生活環境	1. 生活環境とは　　2. 高齢者の社会参加と自立支援 3. 高齢者に住みよい街づくり	講義（川村）
第4回	居住環境の整備	1.高齢者の自立を支援する居住環境 2.居住環境と介護	講義（川村）
第5回	睡眠と休息の介護	１．高齢者の休息と睡眠 ２．休息と睡眠の支援	講義（川村）
第6回	運動と移動の介護（1）	１．運動や移動の意義と目的 ２．ボディメカニクスを活用した介助方法	講義・実技 （幸山・阿部）
第7回	運動と移動の介護（2）	１．移動の自立に向けた用具・道具の活用 ２．車椅子への移乗と移送の方法	講義・実技 （幸山・阿部）
第8回	食事の介護	１．食事の意義と目的 ２．食事を援助する方法	講義・実技 （幸山・阿部）
第9回	口腔の清潔の介護	１．口腔ケアの目的と心身への効果 ２．口腔ケアの方法	講義・実技 （幸山・阿部）
第10回	排泄の介護	１．排泄の意義と目的 ２．排泄介護の特徴 ３．排泄行為の援助方法	講義・実技 （幸山・阿部）
第11回	身体の清潔，身じたくの介護（1）	１．入浴・清潔保持，身じたくの意義と目的 ２．清潔保持の援助方法	講義 （幸山・阿部）
第12回	身体の清潔，身じたくの介護（2）	１．清潔保持の援助方法 ２．整容と衣服の着脱の援助方法	講義・実技 （幸山・阿部）
第13回	緊急時の介護	１．高齢者に起こりやすい事故とその予防 ２．緊急時における連携	講義（高田）
第14回	終末期の介護	１．終末期ケアの意味と介護の役割 ２．危篤時、死後の介護の方法	講義（高田）
第15回	まとめ	授業の総まとめ	筆記試験

評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者について、参加状況（10%）、ミニレポート（10%）、筆記試験（80%）で評価する。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会　編集 　新　社会福祉士養成講座　13　高齢者に対する支援と介護保険制度　中央法規出版 その他、随時資料を配付する。
留意点	毎回「ミニレポート」を記載し、提出をもって出席とします。 実技の際は、身だしなみを指示します。

科目名	社会福祉発達史A	科目コード	W31009	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	松本　郁代		授業形態	講義	単独	
	教職科目(高一種【公民】)	必修							

授業の概要	前近代からの日本における社会福祉のあゆみについて、概観する。そのうえで、慈善事業やその組織化から社会福祉の段階に至るまでの流れを、子ども・高齢者・障碍者・医療などの各領域に踏み込み、救済事業の政策について把握しながら、それぞれの制度や活動がどのように運用されていたのかについて、詳細に講義する。現在の社会福祉の制度や実践と比較すると、すでに姿を消したものや名称を変えて、現在にいたるまで継承されている事柄についても、そのルーツを探り、なぜその仕組みや実践が始まったのか、先人がどのような努力をしたのかについて、生江孝之（1931）『日本基督教社会事業史』教文館などを紐解きながら講義する。
到達目標	１．社会福祉の歴史を学ぶことによって、現在の日本の社会福祉の状況や到達点について、科学的に認識し、社会や時代の流れの中で、社会福祉実践の見通しをもてるようになること。２．日本の社会福祉を学ぶことによって、先人の努力を謙虚に学び、社会福祉の発展に寄与するためには、どのようにしたらよいのかを考察すること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	講義計画、社会福祉の歴史の全体像	日本における社会福祉の歴史を流れを説明する	
第2回	前近代における社会福祉の歴史	日本における前近代の社会福祉の歴史を概観する	
第3回	恤救規則	明治維新と恤救規則	
第4回	特別救護立法	恤救規則以外の救済制度	
第5回	救済事業の展開	救済事業における二つの流れ、窮民救済	
第6回	慈善事業	日本近代における慈善事業	
第7回	児童保護事業	明治期の育児施設について	
第8回	熊本バンド・「北海道バンド」	感化事業：感化院創設、監獄改良事業	
第9回	感化救済事業	感化救済事業における実践	
第10回	救済と慈善の思想	慈恵主義、慈善事業思想の諸相	
第11回	救貧法制構想	恤救規則の改正案	
第12回	慈善事業の発展	慈善事業の本格化	
第13回	児童保護事業の展開	児童保護事業における実践	
第14回	養老事業の形成	高齢者領域の取り組み	
第15回	慈善事業・慈善組織化の時代のまとめ	前期中の講義で取り上げた内容の整理	

評価方法及び評価基準	客観試験100点で、60点を超えられなかった場合については、毎回の小テストの点数を客観試験の点数に加算することができる。ただし、加算の上限は10点まで。
教材教科書参考書	教科書：池田敬正（1994）『日本における社会福祉のあゆみ』法律文化社、室田保夫編著（2006）『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房。参考文献については、随時紹介する。
留意点	欠席した際には、次の日の正午までにプリントを受け取りにくること。国語辞典・漢和辞典を持参すること。遅刻・講義中の私語厳禁

科目名	社会福祉発達史B	科目コード	W31010	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	松本　郁代		授業形態	講義	単独	
	教職科目(高一種【公民】)	必修							
授業の概要	社会福祉発達史Ａと同様								
到達目標	社会福祉発達史Ａと同様								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	慈善事業の社会化と組織化	慈善事業がもつ社会的役割と中央慈善協会結成以降の組織化について	
第2回	社会事業①	社会調査と社会問題論	
第3回	社会事業②	社会連帯論	
第4回	社会事業③	社会事業理論の展開	
第5回	社会事業④	救済事業調査会	
第6回	社会事業⑤	社会事業行政	
第7回	社会事業⑥	方面委員、社会事業の助成機関	
第8回	社会事業⑦	経済保護の形成	
第9回	社会事業⑧	児童保護の進展、医療保護とセツルメント	
第10回	社会事業⑨	救護法の成立	
第11回	戦時厚生事業①	戦時厚生事業期について	
第12回	戦時厚生事業②	戦時下の健民健兵政策、厚生事業理論	
第13回	戦後日本の社会福祉①	戦後社会と福祉改革	
第14回	戦後日本の社会福祉②	社会福祉諸法の成立	
第15回	戦後日本の社会福祉③	社会福祉の本格的形成	

評価方法及び評価基準	社会福祉発達史Ａと同様
教材 教科書 参考書	社会福祉発達史Ａと同様
留意点	社会福祉発達史Ａと同様

科目名	社会保障論A	科目コード	W31011	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	大野　拓哉		授業形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修							
授業の概要	本講では、「社会保障」の概念や制度としての「社会保障」の歴史的展開、社会保障の方法等の基礎的知識を体得した後、医療保険および介護保険に注目し、それらの仕組みや体系、さらには、それらに関連する諸問題をとりあげて検討を加える。								
到達目標	社会福祉の背景をなす社会保障という視野を獲得し、社会福祉における対人援助に関して、より立体的に捉えることが出来るようになることを目指す。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会保障とは何か①	「社会保障」の概念	
第2回	社会保障とは何か②	社会保障の理念	
第3回	社会保障の歴史①	欧米における「社会保障」の形成と展開	
第4回	社会保障の歴史②	我が国における「社会保障」の形成と展開	
第5回	社会保障の歴史③	現代社会における社会保障の機能	
第6回	社会保障の方法	社会保険方式と社会扶助方式	
第7回	医療保険①	保険者・被保険者と保険料	
第8回	医療保険②	保険給付	
第9回	医療保険③	診療報酬と薬価基準	
第10回	医療保険④	高齢医療制度	
第11回	医療保険⑤	国民医療費と医療提供体制	
第12回	介護保険①	保険者・被保険者と保険料	
第13回	介護保険②	保険給付	
第14回	介護保険③	介護提供体制と権利保護	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験のみで評価する。
教材 教科書 参考書	椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障　第14版』有斐閣アルマ
留意点	制度に関する知識は、意識して学ばなければ決して身につかない。

科目名	社会保障論B	科目コード	W31012	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	大野　拓哉		授業形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修							
授業の概要	本講は。社会保障論Ａの続編として、年金保険、労働保険（雇用保険、労災保険）の各保険制度を学び、更に、簡単ではあるが、社会手当、生活保護、社会福祉についても概観する。。								
到達目標	社会福祉の背景をなす社会保障という視野を獲得し、社会福祉における対人援助に関して、より立体的に捉える事が出来るようになる事を目指す。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	年金保険①	保険者・被保険者と保険料	
第2回	年金保険②	老齢年金	
第3回	年金保険③	障害年金	
第4回	年金保険④	遺族年金	
第5回	年金保険⑤	財政と業務体制	
第6回	雇用保険①	保険者・被保険者と保険料	
第7回	雇用保険②	保険給付	
第8回	雇用保険③	雇用保険事業	
第9回	労災保険①	適用事業と保険料	
第10回	労災保険②	労災認定	
第11回	労災保険③	保険給付	
第12回	社会手当	児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当	
第13回	生活保護	生活保護制度	
第14回	社会福祉	社会福祉制度	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験のみで評価する。
教材 教科書 参考書	椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障　第14版』有斐閣アルマ
留意点	制度に関する知識は、意識して学ばなければ決して身につかない。

科目名	精神医学A	科目コード	W31013	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	吉岡　利忠･葛西　久志		授業形態	講義		オムニバス
	精神保健福祉士指定科目	必修							

授業の概要	精神疾患総論として、精神医学の歴史から、代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法について説明する。また、精神科医療における人権擁護としては、入院形態の課題、移送制度、インフォームドコンセント、地域移行の課題について説明する。さらに、精神科医療機関における治療構造として、外来から入院、在宅医療等について説明する。最後には、精神科医療と他機関との連携について概説する。
到達目標	国は医療提供体制の確保を図るための基本指針に精神疾患を加えることにした。都道府県は従来の「４大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）」に加え、精神疾患を追加して「５大疾病」として医療計画を策定することとなる。また精神科病院の長期入院を解消し、社会復帰を促進させることが大きな政策課題の一つとなっている。このような課題に取り組む上で、コア科目である精神医学の歴史をはじめ、精神疾患の理解、人権擁護のあり方、治療構造の理解、精神科医療機関との連携等について学ぶ。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神医学概論〔１〕	①精神医学・医療の歴史、②現代の動向	葛西
第2回	精神医学概論〔２〕	③精神現象の生物学的基礎（a. 神経系の構成、b. 中枢神経系、c. 末梢神経系）	葛西
第3回	精神障害の理解	①障害者の概念（ＩＣＦの課題分析）、②精神障害の成因と分類	葛西
第4回	精神科治療における人権擁護〔１〕	①精神科治療と入院形態、②インフォームドコンセント、③隔離、拘束のあり方	葛西
第5回	精神科治療における人権擁護〔２〕	④精神科救急医療システムとその対象、⑤移送制度による入院	葛西
第6回	精神医療と関係機関との連携〔１〕	①治療導入に向けた支援、②再発予防のための支援	葛西
第7回	精神医療と関係機関との連携〔２〕	③退院促進支援、他	葛西
第8回	精神疾患の症状と診断〔１〕	①精神症状と状態像（意識の諸障害、他）	吉岡
第9回	精神疾患の症状と診断〔２〕	②精神症状と状態像（脳および神経の生理・解剖、他）	吉岡
第10回	精神疾患の治療〔１〕	①精神科薬物療法、②身体的療法（電気けいれん療法、他）	吉岡
第11回	精神疾患の治療〔２〕	③精神療法、④精神科リハビリ	吉岡
第12回	精神科医療機関の治療構造〔１〕	①疾病構造の変化	吉岡
第13回	精神科医療機関の治療構造〔２〕	②外来診療、③在宅医療	吉岡
第14回	精神科医療機関の治療構造〔３〕	④入院医療、⑤医療観察法対象者の支援	吉岡
第15回	精神疾患と精神障害者の理解	①精神疾患を抱える当事者の体験報告、①精神障害者との交流	葛西

評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神疾患の症状、治療などについてどの程度理解したか評価する。
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座　第1巻　「精神疾患とその治療」　第２版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	精神医学B	科目コード	W31014	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	和田　一丸		授業形態	講義		単独
	精神保健福祉士指定科目	必修							
授業の概要	臨床精神医学における各疾患（統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症など）について、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行う。								
到達目標	統合失調症や気分障害などの精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴、診断および治療法を中心に理解を深めることを目標とする。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	統合失調症１	統合失調症の概念と原因	
第2回	統合失調症２	統合失調症の症状	
第3回	統合失調症３	統合失調症の診断と治療	
第4回	気分障害（うつ病と双極性障害）１	気分障害（うつ病と双極性障害）の概念と原因	
第5回	気分障害（うつ病と双極性障害）２	うつ状態と躁状態の症状、治療	
第6回	心因と関係した精神疾患１	心因と関係した精神疾患（神経症性障害など）の概念	
第7回	心因と関係した精神疾患２	神経症性障害の症状、診断、治療	
第8回	摂食障害・睡眠障害	神経性食思不振症・神経性大食症・ナルコレプシーなどについて	
第9回	性に関連した障害・パーソナリティ障害	性同一性障害・境界性パーソナリティ障害などについて	
第10回	児童・青年期の精神疾患	自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害などについて	
第11回	アルコールによる精神・行動の障害	アルコール依存症などについて	
第12回	様々な精神作用物質による精神障害	覚醒剤精神病などについて	
第13回	認知症	アルツハイマー型認知症・血管性認知症などについて	
第14回	器質性精神障害・症状性精神障害	器質性精神障害・症状性精神障害の概念、原因、症状、治療	
第15回	てんかん	てんかんの原因、症状、診断、治療	

評価方法及び評価基準	授業への参加度30%、定期試験70% 　精神疾患についての基本的理解を試す試験問題を出し、精神医学に関する一般的知識のみならず答案の論理性を評価するとともに、授業中の受講態度等を考慮して総合的に成績を評価する。
教材 教科書 参考書	「新・精神保健福祉士養成講座　第1巻　精神疾患とその治療 第2版」　中央法規出版
留意点	

科目名	精神保健学A	科目コード	W31015	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 選択 精神保健福祉士指定科目 必修	担当者名	吉岡　利忠･葛西　久志			授業形態	講義		オムニバス
授業の概要	精神保健は、こころの健康に関する学問的並びに実践的活動である。こころの不調・不健康の兆しを早期に発見し、こころの健康を守り、こころの病を予防することを目的としている。本講義ではこころの健康を体系的に捉え、その要因、対応策や予防策など支援方法について考える。また、その視点には、社会環境を含め、ライフサイクルにおける対象者の精神保健の課題とアプローチについても考えていくことができるよう概説する。								
到達目標	精神保健学Ａでは、広義の精神保健とし、一般の人々も含めたこころの健康の保持・増進について学び、また、精神保健福祉士を目指す人々に限らず、精神保健の基本的な視点を理解し、自らのメンタルヘルスに役立てられるよう知識、援助方法を学ぶ。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神保健の概要と課題〔１〕	精神保健の概要（①精神保健とは、②精神疾患患者数の増加、他）	吉岡
第2回	精神保健の概要と課題〔２〕	精神保健の歴史（①日本における精神保健、②世界における精神保健、他）	吉岡
第3回	精神保健の概要と課題〔３〕	精神保健の課題（①健康づくりに向けての対策、②近年の精神保健の状況、他）	吉岡
第4回	精神の健康とその要因〔１〕	①社会構造の変化と新しい健康観、②ライフサイクルと精神の保健	吉岡
第5回	精神の健康とその要因〔２〕	③ストレスと精神の健康、④生活習慣と精神の健康	吉岡
第6回	精神の健康とその要因〔３〕	⑤精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害	吉岡
第7回	精神の健康への関与と支援〔１〕	①精神の健康に関する心的態度	葛西
第8回	精神の健康への関与と支援〔２〕	②精神保健に関する予防概念と対象	葛西
第9回	精神の健康への関与と支援〔３〕	③精神保健に関する自治体等との連携	葛西
第10回	精神の健康への関与と支援〔４〕	④精神保健に関する専門職種	葛西
第11回	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ〔１〕	①日本における家族の特徴、②結婚生活と精神保健、	葛西
第12回	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ〔２〕	③周産期における精神保健	葛西
第13回	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ〔３〕	④社会的ひきこもりをめぐる精神保健	葛西
第14回	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ〔４〕	⑥高齢者の精神保健、⑦介護をめぐる精神保健	葛西
第15回	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ〔５〕	⑧精神障害者を抱える家族支援、⑨家族の感情表出	葛西

評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。
教材教科書参考書	新・精神保健福祉士養成講座　第２巻「精神保健の課題と支援」　第３版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	精神保健学B	科目コード	W31016	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 選択 精神保健福祉士指定科目 必修	担当者名	吉岡　利忠･葛西　久志			授業形態	講義		オムニバス
授業の概要	精神保健の視点から見た〔学校教育の課題、勤労者の課題、現代社会の課題〕へのアプローチと、精神保健に関する対策〔発達障害、アルコール問題、薬物依存、うつ病と自殺防止認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害など〕と精神保健福祉士の役割、そして地域精神保健に関する諸活動と諸外国の精神保健活動の現状と呼び対策について概説する。								
到達目標	精神保健学Ｂでは、狭義の精神保健とし教育・労働・医療・福祉・司法などの課題とアプローチ方法について学び、また、発達障害、アルコール問題、薬物依存、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害など対する現状と対策やそれらに対する精神保健福祉士の役割ついてを学ぶ。さらに、実践の場で活躍している精神保健福祉士を招聘し現状を学ぶ。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ①	学校教育と生徒児童の特徴（不登校、いじめ、子どもの自殺、学校における暴力、非行問題）他	葛西
第2回	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ②	学校精神保健福祉関連法規、学校における精神保健福祉士の役割、他	葛西
第3回	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①	労働環境の変化、労働者のメンタルヘルスに関する動向、他	葛西
第4回	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②	うつ病と過労自殺、職場内の問題解決のための機関と関連法規、職場における精神保健福祉士の役割、他	葛西
第5回	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割①	発達障害に関する対策、アルコール問題、薬物依存に関する対策	葛西
第6回	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割②	うつ病と自殺防止対策、認知症高齢者に対する対策	葛西
第7回	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割③	社会的ひきこもりに対する対策、災害時の精神保健に関する対策	葛西
第8回	現代社会の課題とアプローチ①	現代社会と精神保健、災害被災者の精神保健、犯罪被害者の精神保健	吉岡
第9回	現代社会の課題とアプローチ②	ニート・若者無業者と精神保健、ホームレスおよび貧困問題と精神保健	吉岡
第10回	現代社会の課題とアプローチ③	性同一性障害と精神保健、多文化と精神保健、ターミナルケアと精神保健	吉岡
第11回	地域精神保健に関する諸活動①	精神保健に関する調査、資源開発、他	吉岡
第12回	地域精神保健に関する諸活動②	ネットワークづくり、地域精神保健と関係法規、人材育成、他	吉岡
第13回	諸外国の精神保健活動の現状と対策①	世界の精神保健の実情、ＷＨＯなどの国際機関の活動、他	吉岡
第14回	諸外国の精神保健活動の現状と対策②	諸外国の精神保健医療の実情、他	吉岡
第15回	実践現場から精神保健福祉士の声	実践の場で活躍している精神保健福祉士を招聘し現状を学ぶ	ゲストスピーカー

評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。
教材教科書参考書	新・精神保健福祉士養成講座　第２巻「精神保健の課題と支援」　第３版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	精神保健福祉援助技術総論	科目コード	W31019	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	葛西　久志		授業形態	講義	単独	
	精神保健福祉士指定科目	必修							

授業の概要	はじめに、精神保健福祉士と社会福祉士の役割と意義では、両福祉士の誕生から資格が制度化されるまでの経緯について説明する。また精神障害者の処遇の過去・現在・未来について検証し、福祉士としての基本理念と基本的視点を理解する。次に、相談援助の定義・価値・理念等については、2014年グローバル定義におけるソーシャルワークの定義について説明する。さらに、精神保健福祉分野における相談援助の体系と、精神保健福祉士の専門職性では歴史的研究から、その概念と現在の具備的条件について検証する。そして、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲、精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助とチームアプローチのついて説明する。
到達目標	現在の精神障害者の概況について知る。その上で精神保健福祉士の歴史的経緯と福祉専門職としての基本理念、視点を学ぶ。次に、精神障害者への処遇の過去、現在、未来を学ぶと共に、障害者福祉の基本施策から処遇の在り方について検討していく。さらに、精神保健福祉士に対する社会的ニーズと対応施策から、様々な分野における役割について学ぶ。そして、本科目の中心的テーマである精神保健福祉士の専門性について、精神保健福祉士法、倫理綱領、専門職性など様々な観点から考察して学ぶ。講義後半は、相談援助の定義と概念として、社会福祉士と精神保健福祉士の固有の業務である「相談援助」を比較し、その違いついて学ぶ。また、国際ソーシャルワークの定義や、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション、チームアプローチについて学ぶ。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神保健福祉士の役割と意義　精神障害者の概況、他	①精神病床入院患者の疾病別内訳、②平均在院日数、③入院者の年齢別割合、④児童期・思春期の精神障害など概況調査の資料の確認	
第2回	精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、他	①精神科ソーシャルワーカーの諸外国、日本での成り立ち、②福祉専門職の基本理念と基本的視点	
第3回	精神保健福祉士の役割と意義　精神障害者への処遇、他	①精神障害者への処遇（過去・現在・未来）、②精神障害者の特性	
第4回	精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、他	①精神保健福祉士の活動拡大と施策、②障害者福祉の基本的施策	
第5回	精神保健福祉士の役割と意義、他	①精神保健福祉士の専門性、②精神保健福祉士法の重要項目、③精神保健福祉士の役割、④精神保健福祉士の倫理	
第6回	社会福祉士の役割と意義、形成過程、他	①社会福祉士誕生の背景、②岸・仲村論争、③新たなソーシャルワークの展開	
第7回	相談援助の定義と概念、他	①福祉士の固有の業務「相談援助」の意味、②2014年グローバル定義におけるＳＷの定義	
第8回	相談援助の価値と理念、他	①理念と価値、②ウエルビーイング（well-being）、③社会正義、④利用者主体と利用者主導、⑤尊厳の保持・人権擁護・権利擁護	
第9回	相談援助の価値と理念、他	⑥精神科医療機関における「相談援助」の変化、⑦人権、人間の尊厳、⑧ソーシャル・インクルージョン、⑨ノーマライゼーションなど	
第10回	精神保健福祉分野における相談援助の体系	①医療機関における専門的活動、②地域生活支援における専門的活動、③司法おける専門的活動	
第11回	精神保健福祉分野における専門職の概念	①福祉士専門職に対する概念の歴史的変遷、②専門職固有の業務である「相談援助」の違い	
第12回	精神保健福祉分野における専門職の概念	③国家資格がない時代の専門職としての位置づけ、④現在の福祉士専門職としての具備的条件	
第13回	相談援助における権利擁護の概念と範囲	①障害者の権利に関する国際的な流れ、②障害者権利条約、③権利擁護	
第14回	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	④権利擁護における5つの機能、⑤精神科医療システムにおける人権擁護（精神医療審査会）	
第15回	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携	①チームアプローチとは何か、②チームアプローチの原則・モデル・機能・課題、③精神障害者アウトリーチ事業	

評価方法及び評価基準	出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したか評価する。
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座　第３巻「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」　第２版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	ソーシャルワーク論ＩＡ	科目コード	W32001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	小川　幸裕		授業形態	講義		単独
	社会福祉士指定科目	必修							

授業の概要	1）相談援助における構造と機能について学ぶ。 2）人と環境の交互作用について学ぶ。 3）相談援助における援助関係（意義、形成プロセスに影響する要因、構造、質と自己覚知、ミクロからマクロ実践領域）について学ぶ。 4）相談援助の展開過程（ケース発見、受理面接、問題把握からニーズ確定、事前評価・支援標的・目標設定）について学ぶ。
到達目標	1）ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 2）相談援助における構造と機能について説明できる。 3）人と環境の交互作用について説明できる。 4）相談援助における援助関係について説明できる。 5）相談援助の展開過程について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	1）授業の概要および到達目標 2）評価方法および評価基準 3）留意点	講義
第2回	相談援助とは（1）	1）ソーシャルワーカーの具体的事例 2）仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み	講義
第3回	相談援助とは（2）	1）ソーシャルワークを構成する要素 2）ソーシャルワークの職場 3）ソーシャルワーカーが所属する組織	講義 レポート課題
第4回	相談援助の構造と機能（1）	1）ソーシャルワークの構造 2）ソーシャルワークにおけるニーズ	講義
第5回	相談援助の構造と機能（2）	1）ソーシャルワークの過程から捉えた機能 2）ソーシャルワークの枠組みからとらえる機能 3）ソーシャルワーク機能から導きだされるソーシャルワーカーの役割	講義
第6回	人と環境の交互作用	1）実践における人と環境 2）人にとっての環境の意味 3）システム理論による一つのソーシャルワーク論	講義 小テスト
第7回	相談援助における援助関係（1）	1）援助関係の意義 2）援助関係の形成プロセスに影響する要因 3）援助構造と援助関係	講義
第8回	相談援助における援助関係（2）	1）援助関係の質と自己覚知 2）援助関係とミクロからマクロ実践領域	講義
第9回	相談援助の展開過程Ｉ（1）	1）相談援助の展開過程の流れ 2）ケース発見	講義
第10回	相談援助の展開過程Ｉ（2）	1）受理面接（インテーク） 2）問題把握からニーズ確定まで	講義 レポート課題
第11回	相談援助の展開過程Ｉ（3）	1）ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで 2）事前評価（アセスメント）から支援標的・目的設定まで	講義
第12回	相談援助の展開過程Ｉ（4）	1）支援標的・目標設定から支援の計画（プランニング）まで 2）支援の計画（プランニング）から支援の実施まで	講義
第13回	相談援助の展開過程Ⅱ（1）	1）経過観察（モニタリング） 2）再アセスメントと支援の強化	講義 小テスト
第14回	相談援助の展開過程Ⅱ（2）	1）支援の終結と効果測定、評価、アフターケア 2）予防的対応とサービス開発	講義
第15回	まとめ	1）相談援助とは 2）相談援助の構造と機能 3）人と環境の交互作用 4）相談援助の展開過程	講義

評価方法及び評価基準	1．定期試験60%、小テスト20%、レポート20% 2．定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、相談援助の構造と機能、相談援助における援助関係、相談援助の展開過程について択一式問題などで確認する。 3．小テスト：２回程度予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。また、事例についての自分の意見を記載する論述式の設問も出す。 4．レポート：ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※レポートなどにおいては、文字数不足、誤字脱字などについては減点の対象とする。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法』中央法規出版
留意点	1．教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2．社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。

科目名	ソーシャルワーク論ＩＢ	科目コード	W32002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	小川　幸裕		授業形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目	必修							

授業の概要	1）相談援助のためのアウトリーチについて学ぶ。 2）相談援助のための契約、アセスメント、介入、経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術について学ぶ。 3）相談援助のための面接の技術について学ぶ。 4）相談援助のための記録の技術について学ぶ。 5）相談援助のための交渉の技術について学ぶ。
到達目標	1）ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 2）相談援助のためのアウトリーチについて説明できる。 3）相談援助の展開過程について説明できる。 4）相談援助のための面接の技術について説明できる。 5）相談援助のための記録の技術について説明できる。 6）相談援助のための交渉の技術について説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	1）授業の概要および到達目標 2）評価方法および評価基準 3）留意点	講義
第2回	相談援助のためのアウトリーチ（1）	1）アウトリーチの必要性 2）アウトリーチを必要とする対象 3）アウトリーチの担う機能	講義
第3回	相談援助のためのアウトリーチ（2）	1）援助過程とアウトリーチの具体的方法 2）アウトリーチを行うための留意点	講義 レポート課題
第4回	相談援助のための契約の技術	1）契約の意義と目的 2）契約の方法と留意点	講義
第5回	相談援助のためのアセスメントの技術（1）	1）アセスメントの特性―統合的で多面的な問題のとらえ方 2）アセスメント面接を支える援助的関係―気を付けておくべきこと 3）面接における言語反応―留意すべき点	講義
第6回	相談援助のためのアセスメントの技術（2）	1）アセスメントで得るべき情報16項目と視覚化できるアセスメントツール 2）アセスメント面接で得た情報の使い方	講義 小テスト
第7回	相談援助のための介入の技術（1）	1）介入の意義 2）介入のターゲット	講義
第8回	援助関係のための介入の技術（2）	1）介入の方法 2）介入の戦略、技術、技法、留意点 3）計画されたソーシャルアクションとしての実践介入	講義
第9回	相談援助のための経過観察、再アセスメント	1）経過観察（モニタリング） 2）再アセスメント	講義
第10回	相談援助のための効果測定、評価の技術	1）有効性の検証としての効果測定 2）プロセス評価とアウトカム評価 3）サービス開発の必要性	講義 レポート課題
第11回	相談援助のための面接の技術（1）	1）相談援助における面接の目的 2）相談援助における面接の展開	講義
第12回	相談援助のための面接の技術（2）	1）面接において用いる技術とコミュニケーション 2）相談援助における面接の形態	講義
第13回	相談援助のための記録の技術	1）記録の意義とその活用目的 2）記録の種類、活用、方法、ＩＴ化 3）記録の技術の実際例と今後の課題	講義 小テスト
第14回	相談援助のための交渉の技術	1）交渉の意義と目的 2）交渉の方法と留意点 3）プレゼンテーションの技術	講義
第15回	まとめ	1）相談援助のためのアウトリーチ 2）相談援助のための契約、アセスメント、介入、経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術 3）相談援助のための面接、記録、交渉の技術	講義

評価方法及び評価基準	1）定期試験60%、小テスト20%、レポート20% 2）定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、アウトリーチ、契約・アアセスメント・介入・経過観察・再アセスメント・効果測定・評価の技術、面接・記録・交渉の技術について択一式問題などで確認する。 3）小テスト：２回予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。 4）レポート：視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※　レポートは、文字数不足、誤字脱字などを減点の対象とする。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法』中央法規出版
留意点	1）教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2）社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。

科目名	ソーシャルワーク論ⅡA	科目コード	W32003	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 選択 社会福祉士指定科目 必修	担当者名	駒ヶ嶺　裕子			授業形態	講義		単独
授業の概要	社会福祉専門職として（社会福祉士・精神保健福祉士）個人、家族、小集団・組織、地域社会といったクライエント・システムに対応するためにソーシャルワーク実践力を目指して理論と方法を学ぶ。								
到達目標	ソーシャルワークの概念や定義を理解し、相談援助の過程におけるアセスメントやマネジメント、グループワーク、ネットワーク、ソーシャルアクションの意義や効果について考察できる。またソーシャルワーク支援過程で活用されるアプローチ方法を事例検討とロールプレイを通して身に着ける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション 対象の理解	授業方針と具体的な流れの説明。社会福祉援助活動の概念と定義 （第 1 章第 1 節）	
第2回	対象の理解	相談援助の対象の理解とシステム理論 （第 1 章第 2 節、3 節）	
第3回	ケースマネジメント	ケースマネジメントの基本、過程、アセスメント （第 1 章第 1 節－3 節）	
第4回	ケースマネジメント	ケアプランの作成・実施 （第 1 章第 4 節）	
第5回	ケースマネジメント	ケースマネジメントの特徴とソーシャルワークの関係 （第 2 章第 5 節、6 節）	
第6回	グループを活用した相談援助	グループワークの意義や概要、グループワークプロセス （第 3章第 1 節）	
第7回	グループを活用した相談援助	自助グループを活用した相談援助とグループ演習 （第 3章第 2 節）	
第8回	コーディネーションとネットワーキング	コーディネーションとネットワーキングの意義と概要 （第 4 章）	
第9回	社会資源の活用・調整・開発	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的と留意点 （第 5 章第 1 節）	
第10回	社会資源の活用・調整・開発	ソーシャルアクションによるシステム作り （第 5 章第 2 節）	
第11回	社会資源の活用・調整・開発	自身の周りにある社会資源と資源の活用 （第 5 章第 3 節）	
第12回	実践モデルとアプローチ	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルとジェネラリストソーシャルワーク（第 6 章第 1 節－3 節）	
第13回	実践モデルとアプローチ	アプローチ（心理社会、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）の事例を通して考察する。（第 7 章第 1 節－3 節）	
第14回	実践モデルとアプローチ	アプローチ（心理社会、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）の事例を通して考察する。（第 7 章第 4 節－7 節）	
第15回	ソーシャルワーク論ⅡAのまとめ	まとめ（テキスト及び配布資料などを復習する）	

評価方法及び評価基準	授業への参加度30%、小テストやレポート30%、試験40%で評価する。 試験は、到達目標のソーシャルワークの概念や定義、アプローチ方法、グループワーク、ネットワーク、ソーシャルアクションなど相談援助の基本的理解を試す問題を中心に出題します。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座　第8巻「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規
留意点	授業は、基本的に講義形式で展開し、学びを深めるために個人ワークやグループワークを行う場合がある。

科目名	ソーシャルワーク論ⅡB	科目コード	W32004	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 選択 社会福祉士指定科目 必修	担当者名	駒ヶ嶺裕子			授業形態	講義		単独

授業の概要	社会福祉専門職として（社会福祉士・精神保健福祉士）個人、家族、小集団・組織、地域社会といったクライエント・システムに対応するためにソーシャルワーク実践力を目指して理論と方法を学ぶ。
到達目標	ソーシャルワークの概念や定義を理解し、相談援助の過程におけるアセスメントやマネジメント、グループワーク、ネットワーク、スーパービジョンの意義や効果について考察できる。また、ソーシャルワーク支援過程で活用される実践モデルとアプローチ方法を事例検討とロールプレイを通して理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	相談援助の理論と方法における意義	オリエンテーション（授業展開のポイント説明）、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ（第 1 章第 1 節、2 節）	
第2回	実践モデルとアプローチ	認知アプローチ、その他のアプローチ （第 1 章第 3 節、4 節）	
第3回	実践モデルとアプローチ	事例考察とアプローチをめぐる課題 （第 1 章第 5 節、6 節）	
第4回	実践モデルとアプローチ	モデルとアプローチの復習および実践演習	
第5回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的 （第 9 章）	
第6回	ケースカンファレンスの技術	ケースカンファレンスの意義・目的・実際 （第 10 章第 1 節、2 節）	
第7回	ケースカンファレンスの技術	実践演習（実際に司会を体験し、カンファレンスを運営実施する） （第 10 章第 3 節、4 節）	
第8回	個人情報の保護	個人情報の基本的捉え方と情報保護　（第 11 章）	
第9回	情報技術の活用	福祉の現場における情報技術の効率化　（第 12 章）	
第10回	事例研究	事例研究をいかに行うか、どのような要件が求められるかなどの基本的情報に関する講義と演習（第 13 章第 1 節、2 節）	
第11回	事例研究	事例研究をいかに行うか、どのような要件が求められるかなどの基本的情報に関する講義と演習（第 13 章第 3 節、4 節）	
第12回	相談援助の実際　1	個人や家族に働きかける（ミクロ・レベル）の事例からソーシャルワークの対象・実践の広さを実感する（第 14 章）	
第13回	相談援助の実際　2	所属機関や地域に働きかける（メゾ・レベル）事例からソーシャルワークの対象・実践の広さを実感する（第 14 章）	
第14回	相談援助の実際　3	法律や制度の改正を視野に入れた（マクロ・レベル）の事例からソーシャルワークの対象・実践の広さを実感する（第 14 章）	
第15回	ソーシャルワーク論ⅡBのまとめ	まとめ（テキスト及び配布資料などを復習する）	

評価方法及び評価基準	授業への参加度30%、小テスト・レポート70%で評価する。 小テストやレポートの着眼点は、ソーシャルワークの概念や定義、アプローチ方法、グループワーク、ネットワーク、スーパービジョン、相談援助の事例から出題する。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座　第8巻「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規
留意点	授業は、基本的に講義形式で展開し、学びを深めるために個人ワークやグループワークを行う場合がある。

科目名	社会福祉調査法	科目コード	W32005	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	松本 悦子		授業形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目	必修							

授業の概要	【キーワード：量的調査、質的調査】 現代社会において日々生活をしていると、何らかの調査結果を目にする機会はよくある。企業の市場調査やメディアの世論調査など、枚挙にいとまがない。しかしその調査方法は多様であり、なかには不適切なものも少なくない。本講義では社会調査に関する基礎知識、調査方法等を学び、様々な社会現象や問題について問いをたて、社会調査を実践できる能力を磨いていく。
到達目標	１．適切な調査、不適切な調査について理解する。 ２．自分自身で疑問を発見し、問いを立てる能力を身につける。 ３．具体的な調査の企画・実施・まとめができるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	本講義を受けるにあたって	
第2回	社会調査とは何か	現代社会における様々な社会調査について認識を深める	
第3回	社会調査の基本ルール	社会調査について基礎的な知識を身につける	
第4回	調査実施の方法論	調査を実施する際の具体的な流れについて知る	
第5回	調査票調査の方法	調査票調査を行うための方法について学ぶ	
第6回	調査票と質問文	質問文や選択肢を作成するための基本的な知識を身につける	
第7回	調査票の構成	調査票の全体の構成について考える	
第8回	サンプリングの考え方と方法	サンプリングの重要性について理解する	
第9回	データの集計	データをどのように扱っていくのかを学ぶ	
第10回	データの分析	集まったデータを分析する方法を身につける	
第11回	質的調査の方法	質的調査とはどのようなものか、理解を深める	
第12回	聴き取り調査	聴き取り調査を行う上での技法を身につける	
第13回	参与観察法	参与観察法について学ぶ	
第14回	調査と倫理	社会調査を実施する際、求められる倫理について認識を深める	
第15回	まとめ	社会福祉調査を行うための知識についてまとめる	

評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、試験80% 到達目標(1)(2)(3)に対応して、基本概念や語句の理解を前提に、社会調査の方法や倫理に関する知識を問う試験を行う。 授業内での課題への取り組みと合わせ総合的に評価する。
教材 教科書 参考書	『社会調査の基礎（第３版）』中央法規出版（2013年）
留意点	授業の順番は必要に応じて入れ替わることがある。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ	科目コード	W32011	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋　和幸・立花　茂樹		授業形態	演習	クラス分け	

授業の概要	［キーワード：　　自己覚知、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術　］ 相談援助の知識と技術に関連する他の科目も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。そのために、本演習は1クラス20人以下の少人数編成とし、事例を用いたグループ討論、ロールプレイングなど、体験を重視した学習を行う。
到達目標	①自己覚知の必要性を理解する。 ②基本的なコミュニケーション技術と基本的面接技法を身につける。 ③ソーシャルワーカーとして求められる自己覚知と利用者理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	演習授業の進め方、グループワークの心構えなどの説明を行い、学習活動の見通しと意欲を高める。	
第2回	「自己紹介・他者紹介」のワーク	会話のしやすさや会話が続かないなど、コミュニケーションすることの難しさと重要性を理解する。	
第3回	「アイスブレーキング」	「アイスブレーキング」を体験することで、初対面の人と話す際の緊張感とそれをときほぐすことの必要性を理解する。	
第4回	「自己理解」のワーク ・私を知る ―私は誰	「20答法」による「自己理解」のワークを通して、ワーカーとして求められる自己覚知とはどのようなことかを理解する。	
第5回	「自己開示」のワーク ・共感の意味と共感の深さについて	ワーカーに求められる自己開示と共感の必要性と大切さを理解する。	
第6回	「コミュニケーション」そのⅠ ・言語的コミュニケーション	一方通行の言語コミュニケーションの危険性を理解する。また、日常会話を振り返り、自分のコミュニケーションスタイルに気づく。	
第7回	「コミュニケーション」そのⅡ ・非言語的コミュニケーション	身振り、表情、しぐさなどの非言語的コミュニケーションの大切さと特徴を理解する。	
第8回	「感じる」のワーク ・感情表出の様々な形	喜び、怒りなどの感情表出は人によって異なる。感情表出の様々な形を理解する。	
第9回	「多様な専門的理解の視点と他者理解」	事例を用いて具体的に専門職者として人を理解するということを経験し、その意味についても理解する。	
第10回	「クライエントを理解する」ワーク ・かかわりの面接技法	クライエントを理解するための基本的な面接技法を身につけ。「クライエントを理解する」ことの意味を理解する。	
第11回	「クライエントと環境との関係」	事例を用いて「クライエントと環境との関係」を構造的に理解する。	
第12回	「面接技術」の獲得 ・話を促すスキル／話の内容を繰り返すスキル、面接場面での記録	事例の追体験により「言語反応のバラエティ」について理解し，ソーシャルワーカーとしての効果的な面接技法を身につける。	
第13回	「ソーシャルワークの視点」 ・権利擁護と社会正義	ソーシャルワーカーにとっての「利用者の権利擁護の機能や社会正義の意味」について理解する。	
第14回	「ソーシャルワークの価値と倫理」	施設や機関の優先事項とクライエントの利益を最大に考えて行動することで生じるワーカーとして抱えるジレンマについて理解する。	
第15回	まとめ ・学習成果の振り返り	学習成果を振り返り、本演習のまとめを行う。定期試験に代えてレポートを課すので、そのテーマと記載方法、提出期限の説明を行う。	定期試験に代えてレポートを課す

評価方法及び評価基準	○平常点評価65%とレポート試験35%による総合評価とする。 ・演習授業における達成度をみるために毎回ふりかえりシートを記入してもらう。 「ふりかえりシート5点満点×13回（第1回と第15回を除く）＝65点満点」＋「定期試験に代えるレポート35点満点」で評価をする。なお、3分の1以上（5回）欠席した学生は評価の対象としない。
教材 教科書 参考書	教科書：日本福祉士養成校協会監修(2015年)『社会福祉士相談援助演習』(第2版) 中央法規 参考書：社会福祉士養成講座編集委員会編集(2015年)『新・社会福祉士養成講座相談援助の基盤と専門職』(第3版) 中央法規
留意点	○演習では積極的発言と共同作業が求められる。能動的学習姿勢での参加を期待する。 ○予習・復習：「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、上記教科書、参考書の該当部分等を読んで学習内容の理解を深めること。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ	科目コード	W32016	単位数時間	4単位 60時間	対象学年	2年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋　和幸･柘植　秀通･丸山　龍太		授業形態	演習	クラス分け	

授業の概要	ソーシャルワークの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、ソーシャルワークの技術を習得する。まず、学年全体を20人以下のグループに分け、それぞれのグループでさらに小グループに分かれ、演習を行う。その演習において、それぞれのグループより、演習内容を発表し、教員がポイントを教授する形をとる。演習終了後、その日の振り返りを10分ほど行う。これらが毎回の授業の全体の流れとなす。
到達目標	前期は面接の基礎を体験し、一応の面接が可能となるようになることを目標とする。ただし、前期終わりの4回は、実際の基礎的実例について、支援を具体的に県としていく。 後期は、実際の事例について、ロールプレイング等をを通して疑似体験を行い、前期の基礎を応用に結びつける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	前期の内容の概説と、予習・振り返りの方法についての周知	講義	第16回	オリエンテーション	後期の内容、特に具体的事例を取り上げることの説明と予習・振り返りの復習	講義
第2回	内容と感情のレベル１	両者の相違に関する、実践演習１	演習	第17回	ソーシャルワークの展開１	インテークからアセスメントにいたるまでの演習	演習
第3回	内容と感情のレベル２	両者の相違に関する、実践演習２	演習	第18回	ソーシャルワークの展開２－１	プランニングから支援の実施までの演習１	演習
第4回	ミクロからマクロに至る環境の理解	複層的な環境のあり方を体験する演習	演習	第19回	ソーシャルワークの展開２－２	プランニングから支援の実施までの演習２	演習
第5回	関係性の理解	人間同士の関係に関する基礎的演習	演習	第20回	ソーシャルワークの展開３	モニタリングから終結までの演習	演習
第6回	対人関係の実技演習	対人関係に関するロールプレイを通しての演習	演習	第21回	精神障害	精神障害者とその家族への援助演習	演習
第7回	面接の目的と特性	面接と通常の会話との相違に関する演習	演習	第22回	発達障害	発達障害者への援助演習	演習
第8回	面接の基盤	面接の基盤となる、共感等のあり方に関する演習	演習	第23回	就労支援	知的障がい者への就労支援の援助演習	演習
第9回	基本的応答技法	マイクロカウンセリングに関する実践演習	演習	第24回	いじめ	学校でのいじめに関する援助演習	演習
第10回	ノンバーバルコミュニケーションについて	ノンバーバルコミュニケーションの体験演習	演習	第25回	児童養護	児童養護施設への入所に関する援助演習	演習
第11回	高齢者虐待	認知症とその家族への援助演習	演習	第26回	高齢者虐待	高齢者とその家族について、虐待に関わる援助演習	演習
第12回	児童虐待	児童とその家族への援助演習	演習	第27回	低所得者問題	低所得者への援助演習	演習
第13回	知的障害	知的障害者とその家族への援助演習	演習	第28回	記録作成１	グループに分かれ、ゲーム等を行い、そのプロセスを逐語記録に起こす。	演習
第14回	身体障害	身体障害者とその家族への援助演習	演習	第29回	記録作成２	前回の記録を振り返り、より適切な記録を作成する。	演習
第15回	振り返り	前期の授業に関する振り返り	演習	第30回	振り返り	後期に関する振り返り	演習

評価方法及び評価基準	第１回・１６回オリエンテーションと第１５回・３０回振り返りを除き、全２６回の演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらう。予習シート５０％　振り返りシート５０％との総合評価とする。 予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および爾後の学習すべき内容を記入する。 なお出席2/3に満たざる者は、評価の対象とはしない。これは、全体の授業30回のみならず、半期15回ごとに2/3に満たざる者も評価の対象とはしない。また、前後期それぞれで成績が30点に満たない者も評価の対象とはしない。
教材教科書参考書	教科書：日本福祉士養成校協会 監修 白澤政和 他編（2015）『社会福祉相談援助演習　第2版』中央法規
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ	科目コード	W32022	単位数時間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川　幸裕・丸山　龍太		授業形態	演習	クラス分け	

授業の概要	[キーワード：社会問題、実践モデル、アプローチ、アセスメント、ロールプレイ] ソーシャルワーカーの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、実際の技術を習得する。相談援助の知識と技術に係わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この目的達成のため、本演習は20人以下の少人数クラス編成による並行で開講し、基本的には事例を用いてグループ討論、ロールプレイングなどによる体験学習を重視する。
到達目標	①社会問題を基盤とした相談援助事例に関するアセスメントができる。 ②相談援助事例の検討をとおして実践モデル、アプローチを理解し説明できる。 ③相談援助事例のアセスメントを相談援助実践の価値・知識・技術を身につける。 ④相談援助事例のロールプレイをとおして相談援助実践の価値・知識・技術を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	1）演習授業の進め方の説明 2）グループワークの心構え	事前学習シート①の配布	第16回	オリエンテーション	1）演習授業の進め方の説明 2）グループワークの心構え	事前学習シート①の配布
第2回	虐待（児童）への相談援助演習（1）	1）事例のアセスメント発表 2）事前学習シート①の確認 3）振り返りシート①の記載	事前学習シート②の配布	第17回	医学・生活・ストレングスモデルに関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメント発表 2）事前学習シート①の確認 3）振り返りシート①の記載	事前学習シート②の配布
第3回	虐待（児童）への相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート②の確認 3）振り返りシート②の記載	事前学習シート③の配布	第18回	医学・生活・ストレングスモデルに関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート②の確認 3）振り返りシート②の記載	事前学習シート③の配布
第4回	虐待（高齢者）への相談援助演習（1）	1）事例のアセスメント発表 2）事前学習シート③の確認 3）振り返りシート③の記載	事前学習シート④の配布	第19回	心理社会的アプローチに関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメント発表 2）事前学習シート③の確認 3）振り返りシート③の記載	事前学習シート④の配布
第5回	虐待（高齢者）への相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート④の確認 3）振り返りシート④の記載	事前学習シート⑤の配布	第20回	心理社会的アプローチに関する相談援助演習（2）	1）事例課題の発表 2）事前学習シート④の確認 3）振り返りシート④の記載	事前学習シート⑤の配布
第6回	障害者（精神障害）への相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑤の確認 3）振り返りシート⑤の記載	事前学習シート⑥の配布	第21回	問題解決アプローチに関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑤の確認 3）振り返りシート⑤の記載	事前学習シート⑥の配布
第7回	障害者（精神障害）への相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑥の確認 3）振り返りシート⑥の記載		第22回	問題解決アプローチに関する相談援助演習（2）	1）事例課題の発表 2）事前学習シート⑥の確認 3）振り返りシート⑥の記載	
第8回	中間まとめ	1）前期前半の振り返り 2）グループ発表	事前学習シート⑦の配布	第23回	1）後期前半の振り返り 2）グループ発表	1）後期前半の振り返り 2）グループ発表	事前学習シート⑦の配布
第9回	社会的排除に関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑦の確認 3）振り返りシート⑦の記載	事前学習シート⑧の配布	第24回	エンパワメントアプローチに関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑧の確認 3）振り返りシート⑧の記載	事前学習シート⑧の配布
第10回	社会的排除に関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑧の確認 3）振り返りシート⑧の記載	事前学習シート⑨の配布	第25回	エンパワメントアプローチに関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑨の確認 3）振り返りシート⑨の記載	事前学習シート⑨の配布
第11回	家族システム論に関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑨の確認 3）振り返りシート⑨の記載	事前学習シート⑩の配布	第26回	ナラティブアプローチに関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑨の確認 3）振り返りシート⑨の記載	事前学習シート⑩の配布
第12回	家族システム論に関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑩の確認 3）振り返りシート⑩の記載	事前学習シート⑪の配布	第27回	ナラティヴアプローチに関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑩の確認 3）振り返りシート⑩の記載	事前学習シート⑪の配布
第13回	普及啓発に関する相談援助演習（1）	1）事例のアセスメントの発表 2）事前学習シート⑪の確認 3）振り返りシート⑪の記載	事前学習シート⑫の配布	第28回	解決志向アプローチに関する相談援助演習（1）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑪の確認 3）振り返りシート⑪の記載	事前学習シート⑫の配布
第14回	普及啓発に関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑫の確認 3）振り返りシート⑫の記載		第29回	解決志向アプローチに関する相談援助演習（2）	1）事例のロールプレイの発表 2）事前学習シート⑫の確認 3）振り返りシート⑫の記載	
第15回	まとめ	1）前期後半の振り返り 2）グループ発表		第30回	まとめ	1）後期後半の振り返り 2）グループ発表	

評価方法及び評価基準	事前学習シート48%、振り返りシート48%、演習への参加度4% 事前学習シート：前期12回、後期12回の記載を課す。配点は１回２点とする。 振り返りシート：前期12回、後期12回の記載を課す。配点は１回２点とする。 演習への参加度：議論へ参加姿勢を評価の対象とする。 ※3分の１以上欠席した学生は評価の対象としない。 ※前期終了時点で30点未満の学生は評価の対象としない。
教材教科書参考書	日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助演習』中央法規
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。

科目名	精神保健福祉援助技術各論A	科目コード	W32026	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山　龍太		授業形態	講義		単独

授業の概要	精神保健福祉援助技術各論Aでは、まず精神保健福祉における歴史的展開、精神保健福祉士が国家資格化に至るまでの経緯を理解する。その後、ケースワーク、グループワークの実際を解説する。精神保健福祉が社会福祉の領域として位置づけられてきたのは、ごく最近のことである。ここに至るまでには多くの関係者の尽力と犠牲があったことを踏まえ、現状との対比の中で今後の課題を考察できることを目指す。
到達目標	精神保健福祉領域の歴史的展開を理解し他者に説明できること。精神保健福祉士が誕生するまでの経緯を説明できること。ケースワーク、グループワークで活用される一連の技法を理解し、活用できることを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神保健福祉の歴史的展開①（海外）	精神保健福祉に関する歴史的展開を理解する。 海外の動向を踏まえ、精神保健福祉の世界的な流れの一端を学ぶ。	講義
第2回	精神保健福祉の歴史的展開②（日本）	精神保健福祉に関する歴史的展開を理解する。わが国の特徴と海外先進諸国との違いを明確にできることを目指す。	講義
第3回	精神保健福祉の歴史的展開③（日本）	精神保健福祉に関する歴史的展開を理解する。わが国の特徴と海外先進諸国との違いを明確にできることを目指す。	講義
第4回	精神障害者支援の基本	人類が長年かけて獲得してきた権利「人権」擁護の思想にふれ、支援の基礎となる視点を理解する。	講義
第5回	精神保健福祉士の精神障害者支援①	精神保健福祉士誕生前から活躍されてきた精神科ソーシャルワーカー、精神医学ソーシャルワーカーの歴史的展開をたどることで、現状の資格誕生までのいきさつを学ぶ。	講義
第6回	精神保健福祉士の精神障害者支援②	精神保健福祉領域での支援対象者とは誰か。精神障害者の概念、精神障害者の定義、精神障害者の特性について理解を深める。	レポート課題① 提示予定
第7回	ケースワークの理論の流れ	精神保健福祉領域で活用されるケースワーク理論を整理する。 （他者にケースワーク理論を説明できる）	講義
第8回	生活支援の援助技術	事例を用いながら、生活支援の一端を理解する。（活用される〇〇モデルの特徴等を他者に説明できる）	講義
第9回	ICFの課題分析	ICIDHからICFへ変化している国際障害分類の理解とICF活用の際の課題を分析する。	講義
第10回	ケースワークの展開過程①	精神保健福祉士が活躍する各種機関ごとに、ケースワークの展開がどのように図られているのか、そして図られるべきかを考察する。	レポート課題② 提示予定
第11回	ケースワークの展開過程②	事例を通して支援のプロセスを確認し、これまで学んできたことをあてはめ、知識の定着を図る。	講義
第12回	グループワークの源流・定義・原則	グループワークに関する基本的事項を理解する。（実際に活用もしくは、基本的事項を他者に説明できる）	講義
第13回	グループワークの定義	グループワークを活用する事例を通して、理解を深める。	講義
第14回	グループワークの構成要素	グループワークを活用する事例を通して、理解を深める。	講義
第15回	グループワークの原則	グループワークを活用する事例を通して、理解を深める。	講義

評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験80%で評価する。 授業の進捗状況に応じてレポート課題を課す。試験では、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。
教材 教科書 参考書	古屋龍太編『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ』弘文堂 坂野憲司編『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための必須科目である。

科目名	精神保健福祉援助技術各論B	科目コード	W32027	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山　龍太		授業形態	講義		単独
授業の概要	精神保健福祉援助技術各論Bでは、主に精神保健福祉領域で活用されるソーシャルワークに関する事柄を理解する。ソーシャルワーク論と併せて相談援助場面で活用される理論等を習得していく。								
到達目標	精神保健福祉領域で活用される各種理論を理解した上で、実際に支援する際学んだことを取捨選択しながら活用できることを目標とする。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神障害者の支援モデル	精神保健福祉領域で活用される支援モデルの概要を理解する。	講義
第2回	相談援助の価値と原則①	精神保健福祉士における価値と原則とは何かを学ぶ。	講義
第3回	相談援助の価値と原則②	相談援助の価値と原則に関して倫理綱領から確認する。	講義
第4回	相談援助支援のプロセスと援助関係 相談援助の為の面接技術	相談援助のプロセスと援助関係を体系的に理解する。	講義
第5回	相談援助活動の展開①	事例を通して疾患や障害に配慮した援助方法を学ぶ。	講義
第6回	相談援助活動の展開② 家族への支援の実際①	精神障害者を抱える家族の状況を理解する。 家族を「システム」として把握する支援策を理解する 家族支援に関わる精神保健福祉士に必要な視点と個別支援の方法をマスターする	レポート課題① 提示予定
第7回	家族への支援の実際② スーパービジョンとコンサルテーション	技能、専門職としてレベルを高める為に活用されるスーパービジョンとコンサルテーションの理論を理解する	講義
第8回	地域で生活するということは	地域移行を推進する上での精神保健福祉士の役割とその課題を理解する	講義
第9回	地域を基盤とした相談援助活動の意義と展開	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方を理解する 地域を基盤にしたリハビリテーションに必要なネットワークを理解する	講義
第10回	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの定義を踏まえ、ケアマネジメントの理念と原則を学ぶ	講義
第11回	精神障害者のケアマネジメント②	ケア会議の特徴と目的を学び、ケアマネジメントチームの形成を理解すると共に、ケアマネジメントが抱える課題を考察する	レポート課題② 提示予定
第12回	地域における資源の動員とネットワーキングの実際①	生活＝精神科病院での生活→地域での生活へという流れは、現状では一部の人にとどまっている。この流れを加速させ、海外先進諸国でも特に長い精神科病院の平均在院日数の減少につなげる為、必要な資源を考察する	講義
第13回	地域における資源の動員とネットワーキングの実際②	前回の講義をベースに各方面からのアプローチを取り上げる。それらを通じて、わが国の地域移行に向けた課題を考えることが出来る	講義
第14回	地域に根ざした包括的な支援活動の必要性	地域生活を支援するわが国の実践例としてACTにおける精神保健福祉士の役割を理解する 海外先進諸国の先駆的な例として、精神科病院を全面廃止したイタリアの例から、わが国の現状打破の為の方策を考える	講義
第15回	今後の課題	本講義を踏まえた上での課題を検討する。	講義

評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験80%で評価する。 授業の進捗状況に応じてレポート課題を課す。試験では、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。
教材 教科書 参考書	古屋龍太編『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ』弘文堂 坂野憲司編『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための必須科目である。

科目名	精神保健福祉演習Ⅰ	科目コード	W32029	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺裕子		授業形態	演習		単独
授業の概要	精神障害者の地域生活上における「困難さ」を障害の特性や社会的背景等から把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術を実践的に展開する。本講義では、事例を取り上げながら相談援助の基本的な知識と技術をロールプレイや個人ワーク並びにグループワークで演習する。								
到達目標	社会福祉専門職として自己理解と他者を理解を学んだ上で、相談職に求められる役割と知識や術を実践的に体験し習得する。特に技術面を身に着けることを重視した記録技術・コミュニケーション技術、チームアプローチ、社会資源の活用における開拓を学ぶ。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	演習の意義と目的	オリエンテーション、精神保健福祉士の相談援助における意義と目的 （第 1 章）	
第2回	相談援助の基盤	自己覚知を図り、自己理解と他者理解の必要性を学ぶ価値と倫理（第 2 章第 1 節、2 節）	
第3回	相談援助の基盤	対人援助技術においてストレングスに着目した利用者理解（第 2 章第 3 節－4 節）	
第4回	相談援助の基盤	コミュニケーション技術を活用した面談（第 2 章第 5 節－6 節）	
第5回	相談援助の基盤	相談の様々な相談場面の面接技術（第 2 章第 7 節）	
第5回	記録の理解	支援記録を作成（基本的な記録技術）（第 3 章第 1 節、2 節）	
第6回	記録の理解	観察法、マッピング技法（第 3 章第 3 節、4 節）	
第7回	チームアプローチの理解	チームアプローチの必要性とその方法について理解（第 4 章第 1 節、2 節）	
第8回	ケアカンファレンスの理解	カンファレンスの進め方（第 4 章第 2 節）	
第9回	相談援助の理解	相談援助の展開過程にかかわる技術（インテーク、アセスメント）（第 5 章第 1 節、2 節）	
第10回	相談援助の理解	相談援助の展開過程にかかわる技術（プランニング、支援の実施）（第 5 章第 3 節、4 節）	
第11回	相談援助の理解	相談援助の展開過程にかかわる技術（評価と終結、多職種連携）（第 5 章第 5 節、6 節）	
第12回	グループワークにおける相談援助の理解	グループワークの必要性とグループワーカーが担う役割と援助技術（第 6 章）	
第13回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（ニーズ把握、社会調査）（第 7 章第 1 節、2 節、3節）	
第14回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（社会資源の活用・開拓）（第 7 章第 4 節－7 節）	
第15回	アプローチ別相談援助の理解	アプローチ（ストレングス、SST、心理教育、集団精神療法など）（第 8 章）	

評価方法及び評価基準	授業への参加度80%と毎回の自己評価20%で総合的に判断する。 個人・グループワークを通して専門職に求められる知識・技術を習得するため、評価の着眼点として発言や考察等を重視する。
教材 教科書 参考書	日本精神保健福祉士養成校協会　新　精神保健福祉士養成講座　第8巻「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」第2版 中央法規
留意点	授業は演習形式で行う

科目名	児童福祉論A	科目コード	W33001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	柘植　秀通		授業形態	講義		単独
授業の概要	［キーワード：子ども家庭福祉　歴史　施策　現状］　子ども家庭福祉の現状をはじめ、歴史・施策などについて学ぶ。基本的には、講義であるが、随時演習を交える。特に、国家試験模擬問題をグループに分かれ、解いていく。								
到達目標	子ども家庭福祉の現在までの発展の経緯、諸施策、制度の在り方について、基本的な理解を得る。特に、これらに関する国家試験について、正解を導き出すことはできなくとも、大体の内容について理解をし、								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション＆子ども家庭福祉の理念	この授業の学びについてのオリエンテーション。続いて、子ども家庭福祉の理念について学ぶ。特に児童福祉という表現から、子ども家庭福祉という表現に変わった意味について学ぶ。	
第2回	子どものための福祉の原理	子どもとは何か。特に、その歴史的発展をも含め、子ども観の意味について考える。さらに、現在の法的範囲等を学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。）	
第3回	子どもと家庭の権利保障	子どもの権利保障に関する歴史的過程とその意味について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。）	
第4回	子ども家庭福祉の発展①	子ども家庭福祉の発展過程を学ぶ。ただし、教科書では、日本の歴史をまず見ていく形になっているが、本授業では、世界の発展の歴史から行っていく。	
第5回	子ども家庭福祉の発展②	前回同様、発展過程を学ぶ。今回は、教科書をさかのぼって、日本の歴史的発展過程を学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。）	
第6回	現代社会と子ども・家庭	子どもたち・家族が直面する現代社会の諸相について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。）	
第7回	子どもの育ち、子育てのニーズ	子ども・家庭福祉におけるニーズのあり方について学ぶ。一つは、親をも含めた成長の過程に基づくニーズのあり方、二つ目は、子ども自身の成長とそのニーズのあり方について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。）	
第8回	子ども家庭福祉の計画的発展と子ども・子育て支援制度の創設①	子ども・子育て支援制度の成立までの過程を学ぶ。（5項までを予め読んでくること。）	
第9回	子ども家庭福祉の計画的発展と子ども・子育て支援制度の創設②	子ども・子育て支援制度の概要、および付随する諸業務等について学ぶ(5項から最後まで読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う）	
第10回	子ども家庭福祉の法体系	子ども家庭福祉にかかわる法体系の全般的理解。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う）	
第11回	子ども家庭福祉の実施体制	子ども家庭福祉に関わる、行政機関のそれぞれの役割と諸施設の運営について学ぶ。（テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う）	
第12回	子ど美緒家庭福祉の財政	子ども家庭福祉の財源はどのようなものがあり、使われているかについて学ぶ。（テキストを予め読んでくること）	
第13回	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉に関わる専門職員とその資格等について学ぶ。（テキストを予め読んでくること）	
第14回	子ども家庭福祉と権利擁護	子ども家庭福祉の諸施設・諸機関を利用する際の、苦情等の解決方法と、いかに子どもと家族の権利を守るかについて学ぶ。（テキストを予め読んで来ること）	
第15回	まとめ	これまでのまとめを行う。	

評価方法及び評価基準	参加度20%、期末のテストでの成績80%で評価を行う。期末のテストは、国家試験と同じ形式を取った試験を行う。参加度については、毎回の授業において、発言を行った回数（いかなる内容でも構わない）、演習形式で行った場合の姿勢等を観察して行う。
教材 教科書 参考書	(教科書)社会福祉士養成講座『児童・家庭福祉制度』(第6版) 中央法規 2016年発行
留意点	授業において、積極的に意見を述べてほしい。いかなる意見・質問であっても、評価するので、こうした積極性を基本としてほしい。

科目名	児童福祉論B	科目コード	W33002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	柘植　秀通		授業形態	講義		単独
授業の概要	[キーワード：児童福祉の現場　保育　社会的養護] より、具体的な課題に入っていくので、具体的問題を色々取り上げながら、現実のあり方についても学んでいく。特に、グループに分かれて、現実に、このようなケースではどうすべきであるかを、考えていく授業も多くしていく。								
到達目標	前期と異なり、より具体的な児童福祉の実態に触れるとともに、そこにある多くの問題について学んでいく。特に社会的養護が持つ、大きな意味と同時に、大きな問題についても目を向けることができるようにする。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	後期オリエンテーション＆子どもの貧困防止	現代における子どもの貧困の状況とその防止の諸施策について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること）	
第2回	母子保健	母子保健とは何か、特にその歴史現状、今後の課題について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第3回	障害・難病のある子どもと家族への支援	障害・難病のある子どもと家族の現状とニーズ、その支援に関する制度・知識を学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第4回	児童健全育成	児童健全育成とは何か、またどのような事業があるかについて学ぶ。また、今後のあり方について考察する。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第5回	保育①	保育制度の流れと、制度の概要②と待機児童問題、少子化問題等について、また保育士資格について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること）	
第6回	保育②	地域子育て支援とは何か。その歴史から現状について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること）	
第7回	地域子育て支援	母子家庭・父子家庭などのひとり親家庭について、その現状と支援のあり方について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第8回	ひとり親家庭の福祉	社会的養護とは何か、また、現在にいたる児童養護の考え方に、諸施策・諸機関①について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第9回	社会的養護	社会的養護の諸施策・諸機関等②と今後の動向について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第10回	非行児童・情緒障害児への支援	非行とは何か、情緒障害とは何か、また、それぞれの特に家族まで含めた支援のあり方ついて学ぶ。特に、基本となる児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること国家試験模擬問題を行う）	
第11回	児童虐待対策	児童虐待とは何か、またその実態、虐待を予防するためのシステム、課題につて学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第12回	子どもと家庭にかかわる女性福祉	女性福祉、特に戦前からの婦人保護事業以来の歴史的経緯、DVおよびDV防止法について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第13回	子ども家庭福祉と相談援助活動	現在まだまだ遅れている、家庭にいる子どもたちへの相談支援、特に複雑な問題を抱えた虐待ケースや多問題家族の子どもたちへの相談支援について学ぶ。（テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う）	
第14回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動	今後の施設ケアのあり方、またあるべき姿について学ぶ、と共に考察する。（テキストを予め読んで来ること）	
第15回	地域援助活動とネットワーク	子ども家庭福祉における地域のあり方、特にネットワーキングについて学ぶ、と共にこれまでのまとめ（テキストを予め読んで来ること）	

評価方法及び評価基準	参加度20%、期末のテストでの成績80%で評価を行う。期末のテストは、国家試験と同じ形式を取った試験を行う。参加度については、毎回の授業において、発言を行った回数（いかなる内容でも構わない）、演習形式で行った場合の姿勢等を観察して行う。
教材 教科書 参考書	(教科書)社会福祉士養成講座『児童・家庭福祉制度』(第6版) 中央法規 2016年発行
留意点	授業において、積極的に意見を述べてほしい。いかなる意見・質問であっても、評価するので、こうした積極性を基本としてほ

科目名	子ども・家庭・社会	科目コード	W33024	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	１年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	立花 茂樹		授業形態	講義	単独	

授業の概要	［ キーワード ： 子どもの発達、人権、、家庭・家族、社会機能、家庭と地域社会の相互補完 ］ 前半では、子ども、家庭、社会の現状と課題をトピック的に取り上げ、子どもの福祉に関する基礎的理解を図る。 後半では、養護を要する子どもや児童虐待、不登校、いじめなど、特別な支援を必要とする子どもたちについての理解と支援のあり方を考える。
到達目標	１　子どもに関する様々な条約等の「子ども観」に触れながら、「子どもの人権」について説明できる。 ２　子どもの成長に及ぼす「あそび」や「電子映像メディア」の影響について説明できる。 ３　子育てに果たす家庭や保育所・幼稚園、地域社会の現状と役割について説明できる。 ４　特別な支援を必要とする子どもたちの概要と対処について自分の考えを述べる。 ５　家族支援に関するソーシャルワークや家族療法の概要を説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	子どもとは	・アリエス著『子供の誕生』に描かれた「子ども」の姿	
第2回	子どもの人権	・「子ども」の権利の保障	
第3回	子どもの成長に果たすおもちゃとあそび（自然環境）の働き	・子どもの成長にはたすおもちゃの役割 ・子どもがあそびによって獲得する能力	
第4回	電子映像メディアの影響	・電子映像メディアの乳幼児期の成長への影響 ・親子の相互作用	
第5回	保育環境の現状	・子どもを育てる環境としての家庭、保育所・幼稚園、地域社会の現状	
第6回	家庭・家族と子ども	・現代家族の変化と特徴 ・家族の危機と問題を抱える家族のタイプ	
第7回	地域社会と子ども	・家庭と地域社会との関係 ・地域における子育て支援	
第8回	特別な支援を必要とする子どもの理解	・養護を必要とする子ども-要養護の概要と支援- ・児童福祉施設と里親制度	
第9回		・虐待されている子ども-児童虐待の概要と支援-	
第10回		・学校に行っていない子ども-不登校の要因・背景と支援-	
第11回		・いじめを受けている子ども-いじめの概要と対処-	
第12回		・反社会的な行動をする子ども-非行の概要と子ども支援-	
第13回	子どもに関する相談援助体制	・子ども、家庭支援に関する主な相談援助機関	
第14回	福祉のアプローチ	・家族支援のソーシャルワーク ・バイステックの７原則	
第15回	心理のアプローチ	・家族療法による支援 ・円環的因果論	

評価方法及び評価基準	○小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 ・小テスト：授業開始時に前時学習内容に関する５分間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・定期試験：到達目標に掲げた項目について、客観式問題及び論述式問題で評価する。
教材 教科書 参考書	○教科書：用いない。適宜資料を配布する。
留意点	○科目に関する様々な報道に関心を寄せ、事象に対する自分の考えを持てるように学びを深めてほしい。 ○予習：授業終了時に配布する次時資料を基に予習を行い授業に臨むこと。 ○復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。

科目名	障害者福祉論A	科目コード	W33003	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海　春輝		授業形態	講義	単独	
授業の概要	障害者の生活実態と、障害者を取り巻く社会情勢や福祉需要について学ぶ。 障害者自立支援制度とその他の法制度について学ぶ。								
到達目標	障害者福祉の基本を理解する。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	担当者の自己紹介、授業の進め方	
第2回	障害者福祉の概念	ＩＣＦ（国際生活機能分類）の目的と特徴	
第3回	障害者福祉の理念	障害者の人権保障と福祉の理念	
第4回	障害者の生活実態①	障害者人口の変遷、身体障害者の生活実態とニーズ	
第5回	障害者の生活実態②	知的障害者の生活実態とニーズ、精神障害者の生活実態とニーズ	
第6回	障害者の生活実態③	発達障害者の生活実態とニーズ、難病者の生活実態とニーズ	
第7回	障害者の権利条約	国際的な権利保障の発達過程、障害者の権利条約	
第8回	障害者の権利保障の歴史	日本における障害者福祉のあゆみ	
第9回	障害者福祉の法①	障害者基本法、障害者福祉の法体系	
第10回	障害者福祉の法②	対象別の法	
第11回	障害者福祉の法③	障害者虐待防止法、障害者差別解消法	
第12回	障害者総合支援法と障害者支援①	障害者総合支援法までの経緯	
第13回	障害者総合支援法と障害者支援②	障害者総合支援法の概要	
第14回	障害者総合支援法と障害者支援③	自立支援医療、補装具、相談支援、地域生活支援事業	
第15回	障害者総合支援法と障害者支援④	苦情解決と審査請求、他法との適用関係	

評価方法及び評価基準	・レポート提出：第８回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第１１回目の授業時間に提出する。成績評価の対象とし、配分は30%とする。 ・筆記試験：講義内容についての試験を実施する。成績評価への配分は70%とする。
教材 教科書 参考書	・教科書：社会福祉士シリーズ１４　「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」［第３版］　弘文堂　＊4月時点で最新版のもの ・参考書：ＮＨＫラジオ第2放送「社会福祉セミナー」放送及びテキスト
留意点	日頃から、新聞に目を通しておくこと。

科目名	障害者福祉論B	科目コード	W33004	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海　春輝		授業形態	講義	単独	
授業の概要	障害者福祉をさまざまな切り口から概観し、現状と課題について学ぶ。								
到達目標	障害者福祉の基本を理解する。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	障害者福祉論Ａの復習、授業の進め方	
第2回	障害者の福祉と労働①	働くことの意味、障害者の就労実態	
第3回	障害者の福祉と労働②	労働保障の制度（障害者雇用促進法等）、障害者の権利条約	
第4回	障害者の所得保障①	障害者の低所得性、障害基礎年金、社会手当	
第5回	障害者の所得保障②	労災制度、生活保護制度、負担軽減措置	
第6回	障害者の社会生活参加①	障害者の社会参加の実態、世論の障害理解の実態	
第7回	障害者の社会生活参加②	バリアフリー環境の整備	
第8回	障害児の福祉サービス①	児童の権利条約、障害者の権利条約	
第9回	障害児の福祉サービス②	母子保健法、児童福祉法の改正	
第10回	障害福祉の整備計画と障害者運動①	障害者の権利条約と国の責務の縮小	
第11回	障害福祉の整備計画と障害者運動②	国・地方公共団体の役割、障害者福祉計画と障害者参加	
第12回	障害者福祉現場で働く職員①	職員配置基準、相談支援専門員	
第13回	障害福祉現場で働く職員②	サービス管理責任者、サービス提供責任者、国家資格	
第14回	障害者相談支援の臨床事例①	知的障害者の地域生活における事例に学ぶ	
第15回	障害者相談支援の臨床事例②	身体障害者の事例、精神障害者で刑務所出所後の事例に学ぶ	

評価方法及び評価基準	・レポート提出：第８回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第１１回目の授業時間に提出する。成績評価の対象とし、配分は30%とする。 ・筆記試験：講義内容についての試験を実施する。成績評価への配分は70%とする。
教材 教科書 参考書	・教科書：障害者福祉論Ａで使用した　弘文堂「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の 第6章～第12章 ・参考書：ＮＨＫラジオ第2放送「社会福祉セミナー」放送及びテキスト
留意点	日頃から、新聞に目を通しておくこと。

科目名	障害と発達	科目コード	W33025	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	１年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	立花 茂樹		授業形態	講義	単独	

授業の概要	［キーワード：障害者の権利と保障、ICF、発達段階と発達課題、感覚・知覚・認知の発達、障害理解 ］ 国際生活機能分類による障害のとらえ方、「障害者」の法的定義、生涯発達の視点に立った代表的な発達理論、感覚・知覚・認知等に関する基礎知識、心理面・生活面からの障害理解等について、講義形式による学びを進め、福祉実践力の基礎を養うことを目指す。
到達目標	１　WHOの国際生活機能分類（ICF）の考え方について説明することができる。 ２　我が国における障害者の法的定義について、主な法律ごとに整理し、表にまとめる。 ３　発達の概念、発達の原理、発達段階など発達の基本概念と主要な発達理論を理解し、その要点をまとめる。 ４　身体障害者福祉法等で規定される障害について、「発達」との関連を踏まえてその障害特徴を、心理面・生活面から説明することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	「障害がある」ということ	・ＩＣＦ（国際生活機能分類）の中での「障害」の捉え方 ・我が国の障害者にかかる主な法律による障害者の定義	
第2回	障害者福祉の基本理念	・障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションとインクルージョン	
第3回	生涯発達の視点と発達課題	・発達の概念（質的変化と順序性、遺伝と環境など）の基本的事項 ・ピアジェ（発生的認識論）、ヴィゴツキー（発達の最近接領域）、ボウルビィ（愛着理論）、エリクソン（心理社会的発達理論）、ハヴィガースト（発達課題）の理論	
第4回			
第5回	感覚・知覚・認知の基礎知識	・感覚、知覚、メタ認知について	
第6回	学習・記憶の基礎知識	・レスポンデント行動とオペラント行動、短期記憶と作動記憶（ワーキングメモリ）	
第7回	知能・創造性・思考の基礎知識	・知能の発達、創造性の発達、思考の内的過程について	
第8回	視覚障害の理解	・心理面、生活面からみた視覚障害の特徴	
第9回	聴覚・言語障害の理解	・心理面、生活面からみた視覚障害の特徴	
第10回	肢体不自由の理解	・心理面、生活面からみた肢体不自由の特徴	
第11回	内部障害の理解	・心理面・生活面からみた内部障害（心臓・呼吸器・腎臓・直腸機能・小腸・ＨＩＶによる免疫障害・肝臓機能）の特徴	
第12回			
第13回	知的障害の理解	・心理面・生活面からみた知的障害の特徴	
第14回	精神障害・高次脳機能障害の理解	・心理面・生活面からみた精神障害、高次脳機能障害の特徴	
第15回	発達障害の理解	・心理面・生活面からみた発達障害の特徴	

評価方法及び評価基準	○小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 ・小テスト：授業開始時に5分間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・定期試験：到達目標に掲げた項目について、客観式問題及び論述式問題で評価する。
教材教科書参考書	○教科書：用いない。適宜資料を配布する。 ○参考書：本田真美（2012）『医師のつくった「頭のよさ」テスト　認知特性から見た６つのパターン』光文社新書
留意点	○紹介する参考図書を積極的に購読し、「発達」「障害」への関心を深めてほしい。 ○予習：授業終了時に配布する次時資料を基に予習を行い授業に臨むこと。 ○復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。

科目名	老人福祉論A	科目コード	W33005	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	工藤　浩行		授業形態	講義	単独	
授業の概要	高齢化における社会的問題と高齢者福祉の制度を理解する。また、高齢者の心身機能を把握し、生活形態やニーズ等から社会的支援策や援助方法に関する基本的視点を養う。								
到達目標	(1) 高齢者の生活実態を把握し、福祉や介護の課題を理解する。 (2) 高齢者にとっての生きがいとは何かを理解する。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	高齢者とは	授業の進め方、レポート課題についての説明。高齢者の定義とイメージから高齢者像を探る。	
第2回	高齢者の社会的理解	家族や地域社会との関係性を理解する。	
第3回	高齢者の身体的理解	老化に伴って生起する変化や疾病について学ぶ。	
第4回	高齢者の精神的理解	高齢期に頻発する精神疾患の特性や心理的な変化について学ぶ。	
第5回	高齢者の総合的理解	高齢者を一人の統合された人間として理解する視点を学ぶ。	
第6回	少子高齢社会と社会的問題	平均寿命や人口比率の変化から暮らしへの影響を学ぶ。	
第7回	高齢者を取り巻く諸問題	ライフサイクルの変化や生活課題について考察する。	
第8回	高齢者福祉の起源と生成	古代から現代までの高齢者の人生や生活を支える社会の仕組みを知る。	
第9回	高齢者福祉の発展	高齢者保健福祉の制度を時系列的に整理し、少子高齢化社会に求められる施策を考える。	
第10回	高齢者保健福祉の法体系	介護保険法以外の高齢者支援の概要を理解する。	
第11回	老人福祉法	老人福祉法の目的と老人保健法や介護保険法などの成立による変化を理解する。	
第12回	高齢者の医療の確保に関する法律	高齢者医療の動向と課題を理解する。	
第13回	高齢者虐待防止法	事例を基に虐待の早期発見や防止について考える。	
第14回	権利擁護と成年後見制度	尊厳の保持、その人らしい生活とは何かを考える。	
第15回	まとめ	グループディスカッションを通じて、高齢者支援を考える。	

評価方法及び評価基準	授業への参加度40%、レポート試験60% 授業後に小テストを行い評価の対象とする。レポート試験では、授業内容を踏まえて自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会　『高齢者に対する支援と介護保険制度』　第5版 中央法規出版
留意点	

科目名	老人福祉論B	科目コード	W33006	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	中村　直樹		授業形態	講義	単独	
授業の概要	本講義では、介護保険制度と高齢者支援の方法について学習する。とくに、介護保険制度について学習する中では、制度創設の沿革や目的、基本的な仕組み、運用等について具体的事例を紹介しながら授業を展開する。								
到達目標	(1)介護保険制度の仕組みや介護保険サービス体系を中心に高齢者支援に関する基礎について理解する。 (2)高齢者を支える制度・政策を学習する中において、支援の実際を具体的にイメージしながら考えることができるようになる。 (3)高齢者の生活実態やニーズに対する社会的支援策を理解し、援助に関する基本的視点を身につける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	介護保険制度の基本的枠組み	介護保険制度の全体像	
第2回		介護保険制度の目的と理念	
第3回		保険財政　（教科書第5章を予習・復習する）	
第4回		保険者と被保険者	
第5回		介護保険制度の最近の動向	
第6回	介護保険制度の仕組み	要介護認定の仕組みとプロセス	
第7回		保険給付	
第8回		介護報酬　（教科書第6章を予習・復習する）	
第9回		地域支援事業	
第10回		介護保険事業計画	
第11回	介護保険サービスの体系	介護保険サービスにおける専門職の役割と実際	
第12回		介護保険サービスの種類　（教科書第7章を予習・復習する）	
第13回	高齢者を支援する組織と役割	地域包括支援センターの組織体系と役割（教科書第8章を予習・復習する）	
第14回	高齢者支援の方法と実際	相談援助とケアマネジメント　（教科書第9章を予習・復習する）	
第15回	高齢者を支援する専門職の役割と実際	専門職による協働と多職種連携　（教科書第10章を予習・復習する）	

評価方法及び評価基準	・①期末試験（70%）、②授業内課題（30%）で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。 ・期末試験は、到達目標をもとに、高齢者を支援する法制度や仕組み等についての基本的概念や語句等の理解が正しくできているかについて評価する。 ・授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。
教材 教科書 参考書	（教科書）新・社会福祉士養成講座 13『高齢者に対する支援と介護保険制度（第5版）』中央法規出版 （参考書）いとう総研資格取得支援センター 編 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ』中央法規出版
留意点	・保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、１件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。 ・期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。

科目名	老化と生体	科目コード	W33026	単位数 時　間	２単位 ３０時間	対象学年	１年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	吉岡　利忠		授業形態	講義	単独	
授業の概要	ヒトのからだの様々な機能が加齢よって変化することを知る。 各年齢層に見合った社会行動、生活行動などを学習する。								
到達目標	ヒトのからだの加齢現象を知る。 ヒトのからだの生理機能を知る。 加齢と老化について学ぶ。 上手に老いることの必要性を知る。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	生体とは	ヒトのからだの機能と加齢現象	
第2回	加齢とは	細胞、組織、器官レベルからみた加齢現象	
第3回	老化とは	人生100年として老化とはいつからか？	
第4回	ヒトのライフスパン	生まれてから死までの生体機能	
第5回	老化についての考え方	生体機能の衰退・形態変化	
第6回	老化現象Ⅰ	活動性が低下することの影響	
第7回	老化現象Ⅱ	筋・骨格系と加齢	
第8回	老化現象Ⅲ	視力、聴力の衰えと加齢	
第9回	老化現象Ⅳ	高齢者と薬について	
第10回	コミュニケーションの大切さ	加齢現象とコミュニケーション	
第11回	老化を伴う精神問題	不安、抑うつ、不眠症など	
第12回	老化を伴う精神問題	加齢と認知症	
第13回	老化を伴う精神問題	脳卒中患者などのケアとキュア	
第14回	死にそなえて	介護,看護,ホスピスなどを含めて考える	
第15回	老化と生体	まとめ	

評価方法及び評価基準	課題レポートによる評価（１００％）
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布
留意点	新聞や雑誌の健康および生活欄を見ること

科目名	公的扶助論A	科目コード	W33007	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山　龍太		授業形態	講義		単独

授業の概要	公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。 公的扶助論Aでは、慈恵的救済から権利的保障へと歩んできた公的扶助の歴史をはじめ、現行法の目的、原理と原則等の仕組みや制度内容、行政運営等を体系的に講述する。
到達目標	到達目標は、以下の3点である。 ①低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 ②相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。 ③自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	貧困概念の変遷	貧困とは何か。基盤となる貧困の概念を理解する。（貧困概念の変遷を他者に説明できる）	講義
第2回	公的扶助の概念と社会保障制度下の生活保護の位置と役割	公的扶助の特徴と範囲、位置と役割、そして機能を学ぶ（公的扶助とは何かを他者に説明できる）	講義
第3回	イギリスにおける公的扶助制度の歴史的展開（１）	慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。	講義
第4回	イギリスにおける公的扶助制度の歴史的展開（２）	慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。（貧困原因の認識の今昔を他者に説明できる）	講義
第5回	わが国における公的扶助制度の歴史的展開（１）	慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。	講義
第6回	わが国における公的扶助制度の歴史的展開（２）	慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。（日本とイギリスの権利的保障の違い等を他者に説明できる）	レポート課題① 提示予定
第7回	生活保護法の目的と自立概念及び自立支援プログラム	生活保護法の目的、自立の概念の変化及び近年行われている自立支援プログラムの概要を解説する。	講義
第8回	生活困窮者自立支援法	生活保護法より前に作用する新たなセーフティネットとして誕生したこの制度の基本的な特徴を確認する。	講義
第9回	生活保護法における原理と原則	生活保護法における４つの原理、４つの原則を理解する。（原理と原則の違いを他者に説明できる）	講義
第10回	生活保護制度の仕組みと内容	保護の種類、保護施設、生活保護基準等、この制度を運用する上での基本的な特徴を把握する。	講義
第11回	保護行政の運営と他職種連携	福祉事務所を初めとした保護行政の基礎的理解を図る。	講義
第12回	生活保護における相談援助活動	生活保護の申請から受給後の支援までの一連の流れを把握する。	レポート課題② 提示予定
第13回	低所得者対策	生活保護法以外で作用する低所得対策の概要を理解する	講義
第14回	公的扶助制度の諸課題①	公的扶助制度が抱える諸課題を通じて権利的保障を推進する為の課題を理解する（公的扶助制度の諸課題を他者に説明できる）	講義
第15回	公的扶助制度の諸課題②	公的扶助制度が抱える諸課題を通じて権利的保障を推進する為の課題を理解する（公的扶助制度の諸課題を他者に説明できる）	講義

評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験80%で評価する。 授業の進捗状況に応じてレポート課題を課す。試験では、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。
教材 教科書 参考書	伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度第４版』弘文堂，2017年
留意点	「慈恵的救済から権利的保障へ」と発展した公的扶助は近年大きく揺らいでいる。貧困に対抗する為に何をどうするべきか。講義を通じ共に考えることとしたい。

科目名	公的扶助論B	科目コード	W33008	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山　龍太		授業形態	講義	単独	
授業の概要	公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。 公的扶助論Bでは、公的扶助論Aで学んだ基礎を踏まえ、生活保護行政が抱える種々の課題に関し、より深く取り上げることとする。わが国の公的扶助制度が、権利的保障の完全なる確立にまで昇華する為の課題を共に考えることとする。								
到達目標	到達目標は、以下の3点である。 ①わが国の公的扶助制度が抱える問題点とは何かを他者に説明することが出来る。 ②公的扶助を権利的保障の制度へと更に昇華させる為の具体的な対策等を提示できる。 ③公的扶助に悪影響を与え続けているスティグマの除去の為、私たちは何ができるかを考え行動することが出来る。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	公的扶助の課題の整理	公的扶助が抱える数々の課題に関し理解する。	講義
第2回	公的扶助制度の諸課題①(生活保護法)	生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する	講義
第3回	公的扶助制度の諸課題②(生活保護法)	生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する	講義
第4回	公的扶助制度の諸課題③(福祉事務所)	生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する	講義
第5回	公的扶助制度の諸課題④(福祉事務所)	生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する	講義
第6回	公的扶助制度の諸課題⑤（国）	生活保護法が抱える課題を国の動向から整理する	レポート課題提示予定
第7回	公的扶助制度の諸課題⑥（民）	スティグマの理解を踏まえた上で、生活保護法と民との関係性と課題を整理する	講義　9回目以降のグループ編成
第8回	公的扶助制度の諸課題⑦（民間団体）	貧困に抗する活動を続ける民間団体に関する理解を深める	講義
第9回	グループ発表会準備①	これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討する。	グループワーク
第10回	グループ発表会準備②	これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討する。	グループワーク
第11回	グループ発表会準備③	これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループでまとめる。	グループワーク
第12回	グループ発表会①	これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う	グループワーク
第13回	グループ発表会②	これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う	グループワーク
第14回	グループ発表会③	これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う	グループワーク
第15回	今後に向けて	公的扶助を前進させる為の具体的な方策を検討する。	講義

評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題20%、グループ発表会での参加度30%、試験50%で評価する。授業の進捗状況に応じてレポート課題を課す。試験では、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。 グループ発表会では、グループに分かれ公的扶助制度を前進させる為の課題とそれに関する解決策を作り上げクラス内で発表し、意見交換を行う。その際の取り組み状況、発表会への参加度等を評価の対象とする。
教材教科書参考書	伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度第４版』弘文堂，2017年
留意点	9回目以降予定しているグループ発表会のいずれかの回でも遅刻・欠席した場合、原則として30%分の減点として対応するので、注意すること。

科目名	現代の生活問題	科目コード	W33027	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	大野　拓哉		授業形態	講義	単独	
授業の概要	「公的扶助論」の履修前あるいは履修後を問わず、公的扶助に関する理解を深めるべく、普段何気なく過ごしている「生活」をめぐる諸問題を、様々な角度から取り上げる。								
到達目標	「生活」をめぐる諸問題を構造的に理解し、公的扶助が果たす役割や限界の理解につなげることを目標とする。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	イントロダクション①	現代の「生活」問題 ～「生活」に焦点を当てる意義	
第2回	イントロダクション②	「現代」の生活問題～「現代」に焦点を当てる意義	
第3回	貧困問題①	近代の「貧困」概念	
第4回	貧困問題②	「貧困」への対応と生活保護制度	
第5回	貧困問題③	「貧困」の性格変化	
第6回	貧困問題④	多元化する「貧困」	
第7回	貧困問題⑤	「貧困」がもたらす多様な影響	
第8回	変化のなかの生活問題①	戦前日本の「家族」像	
第9回	変化のなかの生活問題②	戦後日本の「家族」像	
第10回	変化のなかの生活問題③	「家族」をめぐる裁判例（その１）	
第11回	変化のなかの生活問題④	「家族」をめぐる裁判例（その２）	
第12回	新たな生活課題①	「少子化」をめぐる諸問題	
第13回	新たな生活課題②	「高齢化」をめぐる諸問題	
第14回	新たな生活課題③	「家族」・「社会」・「福祉」	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験のみを評価の対象とする。
教材 教科書 参考書	特に指定しない。
留意点	しっかりした問題意識を持つこと。事前、事後を問わず「公的扶助論」と合わせて履修することが望ましい。

科目名	地域福祉論A	科目コード	W33009	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	中村　直樹		授業形態	講義		単独
授業の概要	【キーワード:権利擁護、住民主体、住民参加、連携、協働】 地域福祉の理論、推進方法、課題等について、実践現場の具体的な事例と照らし合わせながら、地域福祉の全体像を理解する。								
到達目標	地域福祉の全体像を広く理解し、地域社会への関心や福祉活動への積極的参加のための動機づけをする。またこの科目は、社会福祉士国家試験資格取得「指定科目」であることから、地域福祉についての基本的な考え方を理解できるようにする。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	新しい社会福祉システム①	日本の戦前・戦後復興期における地域福祉に関する議論を経て理論体系化される過程について学ぶ。	
第2回	新しい社会福祉システム②	社会福祉法第4条に規定された、「地域福祉の推進」による地域福祉の位置づけとその主体である住民等と行政の協働について学ぶ。	
第3回	新しい社会福祉システム③	新しい生活課題としての生活困窮の状況と生活困窮者自立支援制度の概要、生活困窮者支援における地域福祉の役割について学ぶ。	
第4回	地域福祉の基本的な考え方	地域福祉理論の発展と広がりについて学ぶとともに、地域自立生活支援と地域福祉の理念について学ぶ。	
第5回	地域福祉の主体と福祉教育	福祉教育の歴史や実践活動について学ぶとともに、福祉教育の概念とその内容、更にはその必要性について学ぶ。	
第6回	行政組織と民間組織の役割と実際①	社会福祉における地方分権化と地域福祉計画について学ぶ。	
第7回	行政組織と民間組織の役割と実際②	社会福祉協議会における役割と組織運営やその実践内容について学ぶ。	
第8回	行政組織と民間組織の役割と実際③	社会福祉事業を行うことを目的として設立された社会福祉法人の役割と意義について学ぶ。また、近年広がりをみせている特定非営利法人とボランティア活動について学ぶ。	
第9回	行政組織と民間組織の役割と実際④	民生委員・児童委員や保護司における役割や活動内容について学ぶ。	
第10回	住民の参加と方法	地域福祉推進における住民参加の意義と市町村社会福祉行政における住民参加と参加方法について学ぶ。	
第11回	地域における社会資源の活用・調整・開発	地域を基盤としたソーシャルワーク実践において、地域における社会資源の内容を整理し、その開発・活用方法について学ぶ。	
第12回	地域における福祉サービスの評価方法と実	福祉サービスの評価を必要とする背景と評価の考え方について学ぶ。	
第13回	地域における福祉サービスの評価方法と実	福祉サービスの評価方法と実際について学ぶ。	
第14回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え	日本の地域福祉に影響を与えたとされるイギリスとアメリカにおけるソーシャルワークについて学ぶ。	
第15回	グループワーク・講義のまとめ	地域福祉を推進するために必要な整備方針について考え、最後に講義全体のまとめを行う。	

評価方法及び評価基準	・①期末試験（70%）、②授業内課題（30%）で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。 ・期末試験は、到達目標をもとに、地域福祉の全体像を理解できているかについて評価する。 ・授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。
教材教科書参考書	（教科書）新・社会福祉士養成講座 9『地域福祉の理論と方法（第3版）』中央法規出版
留意点	・この科目は、社会福祉士国家試験資格取得「指定科目」である。 ・保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、１件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。 ・期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。

科目名	地域福祉論B	科目コード	W33010	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	高橋　和幸		授業形態	講義		単独

授業の概要	[キーワード：　人権尊重、共生社会、住民主体、公私協働、　多職種・多機関連携] 少子高齢化、核家族化、無縁社会などのように現代社会は急激に変化し、地域社会にさまざまな問題や課題をもたらしている。こうした問題の解決には制度的福祉サービスだけで対応できず、企業の社会貢献やコミュニティビジネス、ボランティアといった非制度的なサービスを駆使することはもちろん、支援の必要な世帯の見守りや声掛けといった住民福祉活動を活性化することも必要になる。地域福祉は、社会福祉法に規定があるように社会福祉政策や地域政策という面を大事に考えなければならないが、もう一方で、地域で暮らす生活者である住民が主体となって共同活動に取り組む実践の面も重視しなければならない。地域福祉論Bでは、地域福祉論Aで学んだことを基礎とし、地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、関係機関・組織およびソーシャルワーク専門職の役割と実際について詳しく解説していく。
到達目標	到達目標の内容と水準については、この科目が社会福祉士国家試験受験資格取得「指定科目」であるため、社会福祉士養成指定規則別表1の内容と水準となる。①地域福祉の歴史的展開をふまえて、地域福祉の基本的考え方を理解できるようにする。②行政組織、民間組織の役割、住民参加のあり方等について学び、地域福祉の推進方法を理解できるようにする。③コミュニティソーシャルワークの展開と専門職の役割について理解できるようにする。④ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握等、地域福祉の推進方法について理解できるようにする。⑤地域トータルケアシステムの必要性と構築方法について学び、福祉サービスの評価方法について理解できるようにする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	地域福祉とコミュニティソーシャルワーク	コミュニティワークが導入された背景などについて学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第2回	コミュニティソーシャルワークの考え方	コミュニティワークの過程、コミュニティ形成と圏域設定について学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第3回	コミュニティソーシャルワークの特徴	福祉コミュニティと地域におけるニーズ集約について学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第4回	コミュニティソーシャルワークの機能	地域資源を結びつけるネットワーキングの視点から学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第5回	コミュニティソーシャルワークの展開方法	コミュニティワークの展開について学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第6回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割	市町村社協の役割と福祉活動専門員の業務内容について学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第7回	多職種・多機関連携を含むネットワーキング	地域で生活する要援護世帯に対する多職種・多機関の連携の実際を学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第8回	ソーシャルサポートネットワークの考え方及び福祉サービスのプログラム評価	ソーシャルサポートとコミュニティワークの関係について学ぶ。あわせて、福祉サービスのプログラム評価についても学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第9回	地域福祉活動に対する助成金活用、地域福祉計画	さまざまな民間助成金について、市町村地域福祉計画について学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第10回	地域における福祉ニーズの把握と実際	地域における福祉ニーズの把握の方法を学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	住んでいる地域の福祉ニーズについて調べるレポートを課す
第11回	災害支援の考え方と方法	災害支援の考え方と方法、災害支援とソーシャルワークについて学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第12回	地域包括ケアシステムの必要性と考え方	地域トータルケアと地域包括ケアについて学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第13回	福祉で街づくりとソーシャルアクション	地域福祉の視点からソーシャルキャピタル、ソーシャルアクションについて学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第14回	福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	コミュニティビジネスの実際、企業の社会貢献の実際を学ぶ。（テキスト該当ページを予め読み、配布プリントの国家試験模擬問題を定期試験対策ノートに写し復習すること）	
第15回	講義のまとめ	まとめを行う。	

評価方法及び評価基準	講義への参加態度30%、定期試験70%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。
教材 教科書 参考書	(教科書) 社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』(第3版)中央法規 2015年発行 (参考書)いとう総研資格支援センター『見て覚える社会福祉士国試ナビ2018』中央法規 2017年発行
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。

科目名	ローカル・ガバナンス	科目コード	W33028	単位数時間	２単位 ３０時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	西東 克介		授業形態	講義	単独	

授業の概要	本講義は政策論の基盤となる講義を目指している。我が国の組織は、良かれ悪しかれ、戦後猛烈な勢いで発展してきた。だが、この30年ほどは、それまでの勢いはない。その基盤となった個人の能力が衰退しつつあると言われる。個人の能力は集団・組織において向上もするが、逆に下降もする。近年地域活性化が国をあげて促進されているが、個人の能力が培われる環境づくりと具体的な方法に関する議論が不可欠となろう。本講義は、そうした議論を進めていく際の基本的な理論を若干の歴史的過程を加えて行うものである。
到達目標	地域の自律と自立を個人のレベルからじっくりと考察し、そうした能力を集団・組織へと地道に培う知性を育んでもらう。これまで学生が実践しているものがあれば継続してもらい、本講義により新たに実践したいものがあれば、それを加えていただければと思う。本講義は暗記する能力を養うものではなく、とにかく考える能力、できれば少しでも実践する能力の基盤を養うものにしてもらいたい。ローカル・ガバナンスは、一人ひとりのガバナンス能力向上によって支えられていくものだからである。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	自律を個人・集団・組織から考える	自律について、個人・集団・組織の視点から各グループで話し合いをしながら考えていく。	
第2回	自立を個人・集団・組織から考える	自立について、個人・集団・組織の視点から各グループで話し合いをしながら考えていく。	
第3回	地方政府の自律を考える	（我が国）地方政府がなぜ自律（精神）に欠けるのかを官僚制論から考察する。	
第4回	地方政府の自立を考える	（我が国)地方政府がなぜ自立できないのかを制度とデモクラシー論から考察する。	
第5回	governmentとgovernanceの違い	組織を生態（形式）的にではなく、動態（実体）的な視点から考察する。	
第6回	governanceとしての我が国地方政府	動態的な視点から我が国地方政府を分析し、将来像を描く。	
第7回	governanceとしての米国地方政府	動態的な視点から米国地方政府を分析し、将来像を描く。	
第8回	A.トクヴィルの自治の精神	およそ180年前、仏人A.トクヴィルは、米国人の動態をどのように分析したのか。	
第9回	我が国集団主義教育の組織文化	我が国戦後の公教育は日本国憲法の理念にも関わらず、集団重視（主義）の教育をずっと行ってきた。このことと、governanceの関係を考察する。	
第10回	米国個人主義教育の組織文化	米国は20世紀への転換期以来個人重視（主義）の教育を強化してきた。このことと、governanceの関係を考察する。	
第11回	合理化とグローバリズム・ローカリズム	資本主義による経済発展は合理化を進め、民主主義の展開はこれを促進する。さらに、両者の発展はグローバリズムを拡大・浸透させる。これらとローカリズムの関係を考察する。	
第12回	専門職と能力	グローバリズムの拡大以前から専門職種の拡大が進んでいる。米国では世界で最も早くから専門職が拡大していった。我が国でもこの20年ほどでかなり拡大してきた。専門職の分類と基盤となる能力について考察する。	
第13回	専門職の自立と組織	行政や企業を中心に、組織はジェネラリストと専門職から構成されている。こうした組織のメリット・デメリットを分析・考察する。	
第14回	ジェネラリスト・スペシャリストと組織	行政はジェネラリストと専門職を含むスペシャリストによって構成されている。こうした構成と行政組織のgovernanceの関係を分析・考察する。	
第15回	ローカル・ガバナンスとは	ローカル・ガバナンスの意義とまとめを私たち自身・集団・組織に当てはめて考察する。	

評価方法及び評価基準	課題レポートを１回提出。試験を１回。双方を50点満点で採点し、合計します。３分の２以上出席した学生を採点します。
教材教科書参考書	教科書：藤井浩司・中村祐司（編著）『地方自治の基礎』一藝社（2017）、2400円。
留意点	第1回目の講義を欠席する予定の学生は事前に西東まで連絡を取り、欠席理由を伝えること。

科目名	社会福祉行政論	科目コード	W33029	単位数時間	1単位 16時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義		単独
授業の概要	［キーワード：福祉国家、行政国家、大きな政府、官僚制、ストリートレベルの官僚制、専門職と組織］ 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織・専門職との関係を分析し、問題点を考察します。								
到達目標	・社会福祉行政を国家論および官僚制論から見ていくことができるようにします。 ・スペシャリスト、エキスパート、「専門職」、専門職の関係を理解し、自らの指針に磨きをかけます。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	講義の概要と展開	本講義の概要、展開、そして試験等について説明。	
第2回	福祉国家と行政国家と「大きな政府」の違いと共通点	福祉国家とは、福祉行政や関連する行政が増大した国家、行政国家とは３権の中で、行政部門が肥大した国家、「大きな政府」とは、あらゆる行政が肥大した国家です。共通点はいずれも行政費用の増大をまねきます。	
第3回	日本の福祉行財政の歴史的展開と今後	戦後から1990年代までの福祉行政と2000年代からの福祉行政では、その理念や具体的政策が大きく変わった。	
第4回	社会福祉行政と地方公共団体	変わった点は、地方自治体の役割が非常に大きくなりました。措置から契約へとほぼ政策理念が変わり、多くの社会福祉法人や民間企業が社会福祉事業に関わることになりました。	
第5回	介護保険制度と行政	社会福祉政策の中でも大きく変わったのが高齢社会に対応した介護保険制度が取り入れられたことです。	
第6回	社会福祉事業と事業者に対する指揮監督	政策に契約理念が採用されたため、たくさんの高齢者施設やサービス事業が社会福祉法人や民間企業によってできました。契約どおりにサービス提供ができない場合、行政の指揮監督がなされることも。	
第7回	社会福祉の費用と財源	社会福祉の費用と財源は、基本的には国の税金と国民の介護保険料等で賄われます。その他には、寄付金などがあります。	
第8回	ガバナンスと制度改正	数年前の制度改正は、組織のガバナンスを強化する方向性が打ち出された。このガバナンスの理解と制度改正の方向性を考える。	
第9回	制度改正１	改正前と改正後の比較から考える。	
第10回	制度改正２	その２	
第11回	社会福祉の専門諸機関	社会福祉の専門諸機関を行政組織として分析し考える。	
第12回	相談過程と地域の相談システム	2000年以降の発展過程を中心に考える。	
第13回	専門職の専門性	専門職の専門性について、行政統制（行政責任）論と専門性の２方向性から考える。	
第14回	社会福祉専門職	前回の専門職論から考察すると、社会福祉の各専門職は、どのように分類可能かを考える。	
第15回	まとめと試験	講義全体のまとめと試験	

評価方法及び評価基準	教科書：池村正道編集『福祉行財政と福祉計画』（社会福祉士シリーズ１０）弘文堂、2013年（第２版）。できるだけ新しいものがよい。
教材教科書参考書	
留意点	2015（平成27）年度以前に入学した学生は、第７回の講義まで出席してください。試験は、「社会福祉行政論」と「福祉計画論」の双方を新年の１月の終わりか２月の初めに私の研究室で行います。

科目名	福祉計画論	科目コード	W33030	単位数 時間	1単位 16時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義		単独
授業の概要	［キーワード：PDCAサイクル、計画と組織、説明責任（アカウンタビリティ）、評価、監査］ ・官僚制の下で、計画が精緻化されていくことの意義と機能を説明し、計画の長所と短所を考えます。								
到達目標	・官僚制と計画の関係を理解して、福祉計画について分析できるようにします。 ・行政責任（行政統制）論を理解して、福祉計画の評価と監査の違いを理解するようにします。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	講義の概要説明	講義の概要、計画、試験等について説明します。	
第2回	計画とは何か	計画の基本的理解と我が国戦後の国家的計画の歴史	
第3回	行政計画と福祉計画	行政福祉計画と社会福祉法人等の福祉計画の理解	
第4回	福祉計画の策定過程とその方法	PDCAサイクルの基礎的理解とその策定方法の理解	
第5回	具体的な福祉計画	様々な具体的な活動をどのように福祉活動として計画に取り入れていくのかを考察	
第6回	評価と監査の違いとアカウンタビリティ	アカウンタビリティの分析により、評価と監査の違いと人間の自発性を考える。	
第7回	福祉計画の評価方法	福祉計画の評価方法と評価と監査の違い	
第8回	福祉計画におけるニーズとは	福祉計画におけるニーズを類型化して考える。	
第9回	ボランティア（NPO）と福祉計画	ボランティアについて分析し、これを福祉計画にどのように絡めるのかを考える。	
第10回	地域の伝統文化と福祉計画	地域の伝統文化には、地域の多くの住民が長年親しんできている。そうした文化をどのように福祉や福祉計画に絡めるかについて考える。	
第11回	住民参加と福祉計画	地域住民が福祉や福祉計画について考える意義について解説する。	
第12回	クライアントの自発性と福祉計画	福祉の業務やボランティアに関わる人々が、クライアントはなにもできないなどと思ってはいけない。クライアントは特技を持っている場合が多いのです。その自発性の尊重と福祉や福祉計画を考える。	
第13回	スペシャリスト・ジェネラリストと福祉計画	集団や組織には、スペシャリストとジェネラリストの能力が不可欠である。あるいは、双方の能力を持つ人々がいてもいい。福祉計画を策定していく際に、これをいかす考え方を探る。	
第14回	ケアの理念と福祉計画	福祉に携わるあらゆる専門職や一般の人々のケアの理念について考える。	
第15回	まとめと試験	福祉計画論のまとめと試験	

評価方法及び評価基準	試験（100%）　文章の構成と論理性を中心に評価
教材 教科書 参考書	「社会福祉行政論」の教科書と同じ。
留意点	2015（平成27）年度以前の入学生は後期「福祉計画論」と前期「社会福祉行政論」の講義を第７回まで出席してください。

科目名	保健医療論	科目コード	W33013	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目　　精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺裕子		授業形態	講義	単独	
授業の概要	保健医療サービスでは、地域で暮らす利用者（患者）を保健・医療・福祉で包括的に支えるシステムを具体的に学び、そこにかかわる社会福祉専門職（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割と効果を考える。特に本講義では、保健医療分野の制度、社会保障、関連機関等の基本的知識と専門職の役割、社会資源との連携を事例にふれながら説明する。								
到達目標	保健医療サービスにおける医療法や診療報酬、介護保険法における施設の機能や類型、そこにかかわるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の基本姿勢と業務内容を具体的に習得する。そして利用者（患者）の地域生活を包括的に支える医療と福祉（チーム医療）の在り方を説明することができる。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	保健医療サービスの全体像	オリエンテーション、保健医療サービスとその構成要素 （第 1 章第 1 節、2節）	
第2回	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割	医療法改正と在宅医療、チーム医療の推進 （第 1 章第 3 節、4節）	
第3回	保健医療サービスを提供する施設とシステム	医療法による医療施設および保健医療政策の医療施設の機能・類型（第 2 章第 1 節、 2 節）	
第4回	保健医療サービスを提供する施設とシステム	地域包括ケアシステムと在宅医療、医療と介護 （第 2 章第 3 節）	
第5回	保健医療サービスを提供する施設とシステム	診療報酬と介護保険法における施設等の機能・類型 （第 2 章第 4 節、5 節）	
第6回	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務内容の枠組み （第 3 章第 1 節、第 2 節）	
第7回	医療ソーシャルワーカーの役割	ミクロからメゾ、マクロへのソーシャルワーク （第 3 章第 3 節、 第 4 節）	
第8回	専門職の役割	専門職の概観と基本的姿勢 （第 4 章第 1 節、 第 2 節）	
第9回	専門職の役割	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際 （第 4 章第 3 節）	
第10回	保健医療サービスの提供と経済的保障	医療保険制度と診療報酬制度の概要 （第 5 章第 1 節）	
第11回	保健医療サービスの提供と経済的保障	介護保険制度と介護報酬、公費負担制度の概要 （第 5 章第 2 節、 第 3 節）	
第12回	専門職の連携と実践	保健医療専門職との連携方法と基礎知識および連携機関・団体 （第 6 章第 1 節、 第 2 節）	
第13回	専門職の連携と実践	保健医療の専門職との連携の実際 （第 6 章第 3　節）	
第14回	地域の社会資源との連携と実践	ネットワーク構築のための基礎知識と実際 （第 7 章第 1 節、第 2 節）	
第15回	保健医療論のまとめ	まとめ（テキスト及び配布資料などを復習する）	

評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、小テストやレポート評価点30%、試験50% 特に医療施設の機能、在宅医療と連携、医療ソーシャルワーカー、チームアプローチ、介護保険制度、医療保険制度の概要と用語を抑える。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座 第17巻 「保健医療サービス」第5版　中央法規
留意点	授業は、講義形式と学びを深めるために個人ワークやグループワークを行う場合がある。

科目名	医療ソーシャルワーク論	科目コード	W32006	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期

区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺裕子	授業形態	講義	単独

授業の概要	医療ソーシャルワークとは、医療機関において行われる疾患・障害でおこる患者と家族の経済的・社会的・精神的等、また入退院によるソーシャルワークのことである。本講義では、相談援助における社会福祉専門職（社会福祉士・精神保健福祉士）の意義、価値と倫理、面接技術、家族支援、アセスメント、地域関係機関との連携、社会保障等を中心に学びを深める。
到達目標	医療ソーシャルワークの基礎知識・理論を学び、医療機関におけるソーシャルワークの相談援助方法を身に着ける。 具体的には、医療機関における患者と家族における相談援助技術、倫理、多職種連携、アセスメント、地域社会との連携などを習得する。

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	医療ソーシャルワーカーの意義	オリエンテーション、わが国の少子高齢化の現状と問題 （第 1 章）	
第2回	医療における社会保障の動向とソーシャルワークの成立の経過と課題	社会保障政策の歴史的変遷 （第 2 章）	
第3回	価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理 （第 3 章）	
第4回	医療における「家族」の理解	患者・家族の関係性と家族の役割 （第 4 章第 1 節、2 節）	
第5回	生活機能障害とソーシャルワーク	障害の自己受容と家族受容、そして社会受容の理解 （第 5 章第 1 節、2 節）	
第6回	生活機能障害とソーシャルワーク	ソーシャルワーカーの役割 （第 5 章第 3 節）	
第7回	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識	疾病が生活に与える影響とその実態（糖尿病と脳卒中、がん治療と在宅支援）（第 6 章第 1 節、2 節）	
第8回	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識	疾病が生活に与える影響とその実態を学ぶ （認知症、アルコール依存症）（第 6 章第 3 節、4 節）	
第9回	連携とチーム医療	連携と協働、チームとネットワーク （第 7 章）	
第10回	診療報酬とソーシャルワーク	診療報酬とソーシャルワークとの関連性 （第 8 章）	
第11回	面接技術	面接技術の理論と効果的なコミュニケーション能力の理解 （第 9 章第 1 節－4 節）	
第12回	面接技術	面接場面（ロールプレイ） （第 9 章第 5 節－9 節）	
第13回	アセスメント	ジェネラリストソーシャルワークのアセスメントの意義 （第 10 章第 1 節、2 節）	
第14回	アセスメントとソーシャルワークの記録	アセスメントに必要な情報、情報の分析、統合、再構成と伝達の方法（第 10 章第 3 節、11 章）	
第15回	事例検討	事例検討の意義と具体的手順 （第 12 章）	

評価方法及び評価基準	授業への参加度30%、小テスト30%、試験40%で評価する。 小テストは、医療ソーシャルワーカーの価値と倫理、面接技術、アセスメント、地域関係機関との連携、社会保障の理解、事例を中心に出題する。
教材 教科書 参考書	日本医療社会福祉協会編「保健医療ソーシャルワークの基礎―実践力の構築―」相川書房
留意点	授業は講義と演習形式で行う。また主体的な学習を進めるために個人ワーク、グループワークを実施し、発言や考察を求める。

科目名	精神保健福祉制度論A	科目コード	W33021	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西　久志		授業形態	講義		単独

授業の概要	精神保健福祉制度論Ａでは、精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化について概説する。その中で、精神保健福祉士の歴史的変遷と精神保健福祉士法の改正内容と意義についても説明する。さらに、精神障害者がどのように処遇をされてきたのかを施策の面からも検証していく。また、障害者自立支援法の成立経緯から障害者総合支援法へ移行後の制度内容を概説する。前期後半には、アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策などについて概説する。
到達目標	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義について学ぶ。その中で、精神保健福祉士の歴史的変遷と精神保健福祉士法の改正内容と意義について詳しく学ぶ。さらに、精神障害者がどのように処遇をされてきたのかを施策の面からも検証しながら学ぶ。また、障害者自立支援法の成立経緯から障害者総合支援法へ移行後の制度内容を学び、制度活用など即実践できるよう身につける。前期後半には、アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策等々についても学び現場実習に活かせるようにする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神保健福祉の歴史的変遷①	奈良朝時代、江戸時代、明治時代（精神病者監護法）	
第2回	精神保健福祉の歴史的変遷②	大正時代（精神病院法）、昭和30年～40年代（精神衛生法）	
第3回	精神保健福祉の歴史的変遷③	昭和60年代（精神保健法）～平成時代（精神保健福祉法）	
第4回	精神保健福祉士の歴史	精神科ソーシャルワーカーの誕生（アメリカ、日本など）	
第5回	精神保健福祉士の専門性②	精神保健福祉士制度の成立、他	
第6回	精神保健福祉士の専門性②	精神保健福祉士法の改正内容とその意義	
第7回	精神障害への処遇の過去･現在･未来①	Ｙ問題、宇都宮病院事件、社会的入院、他	
第8回	精神障害への処遇の過去･現在･未来②	「保護者」廃止、退院後生活環境相談員の配置、他	
第9回	精神障害への処遇の過去･現在･未来③	退院促進事業（地域移行支援）、アウトリーチ支援（地域定着支援）	
第10回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①	福祉六法の成立、障害者基本法の成立、障害者自立支援法の成立	
第11回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②	障害者総合支援法の改正、障害者福祉サービスの事業内容①	
第12回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③	障害者福祉サービスの事業内容②、自立支援医療のしくみ	
第13回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス④	アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策	
第14回	精神障害者に関する社会保障制度の概要①	医療保険制度、介護保険制度、	
第15回	精神障害者に関する社会保障制度の概要②	生活保護制度、他	

評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉の歴史的変遷（制度の変遷含む）や、障害者総合支援法などについてどの程度理解したか評価する。
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座第６巻　「精神保健福祉に関する制度とサービス」　第６版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	精神保健福祉制度論B	科目コード	W33022	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西　久志		授業形態	講義		単独

授業の概要	精神保健福祉制度論Ｂは、精神保健福祉士が精神障害者のおかれた状況や抱える問題理解していく上で、精神保健福祉法の理解は不可欠である。そこで、精神保健福祉法の目的および対象として、法律の目的、法律の対象、精神保健福祉センターなどの規定について概説する。また、心神喪失者等医療観察法や更生保護法から司法・医療・福祉の連携について説明する。さらには、精神保健福祉士の専門職性とその研究から学んだ社会調査（量的調査法、質的調査法）についても概説する。
到達目標	精神保健福祉士は、精神保健福祉法を活用して精神障害者の社会的復権の実現を図っていく必要がある。そこで、精神保健福祉の運用の基本法律である精神保健福祉法について詳細に学び、いつでも活用できるよう身につけておく。また、近年改正された精神保健福祉法の中で、保護者制度の廃止、地域移行支援に向けた法整備など学ぶ。さらには、司法・医療・福祉の連携や、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査の方法を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神保健福祉法の概要①	第1条：法の目的、第2条：国及び地方公共団体の義務、他	
第2回	精神保健福祉法の概要②	第19条の7：都道府県立精神科病院、第19条の８：指定病院、他	
第3回	精神保健福祉法の概要③	第29条：措置入院、第30条：費用負担、他	
第4回	精神保健福祉法の概要④	第33条第1項：医療保護入院、第33条の7：応急入院、他	
第5回	精神保健福祉法の概要⑤	第34条：医療保護入院のための移送制度、第45条：精神障害者保健福祉手帳、他	
第6回	医療観察法の概要と実際①	医療観察法の目的等、医療観察法の合議制、他	
第7回	医療観察法の概要と実際②	医療観察法の流れ、医療観察法の抗告、他	
第8回	医療観察法の概要と実際③	医療観察法の指定医療機関、医療観察法の精神保健観察	
第9回	医療観察法の概要と実際④	医療観察法の抗告、医療観察法の実際	
第10回	医療観察法の概要と実際⑤	保護観察所の業務、社会復帰調整官	
第11回	司法・医療・福祉の連携①	更生保護対象者の特徴、	
第12回	司法・医療・福祉の連携②	司法・医療・福祉の連携の必要性と実際	
第13回	司法・医療・福祉の連携③	更生保護に関する新たな施策、社会内処遇の今後	
第14回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査①	精神保健福祉士の専門職性に関する研究（研究目的、研究方法など）	
第15回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査②	アンケート調査による量的調査方法、質的調査方法	

評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉の歴史的変遷（制度の変遷含む）や、障害者総合支援法などについてどの程度理解したか評価する。
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座第６巻　「精神保健福祉に関する制度とサービス」　第６版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	精神科リハビリテーション学A	科目コード	W33019	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内　隆生		授業形態	講義		単独

授業の概要	リハビリテーションについて基本的理念を理解するとともに、精神障害者に対するリハビリテーションについて学ぶ。その内容は、精神科リハビリテーションに関する歴史・概念・範囲・構成各要素・過程・リハビリテーションの技法・関連領域と他専門職との連携等であり、これらを理解することで精神科リハビリテーションの概略を理解し、精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割について理解する。
到達目標	①精神科リハビリテーションの概念が理解できる。 ②精神科リハビリテーションのプロセスが理解できる。 ③精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割が理解できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション 障害の概念	1.授業+L9:AB21の進め方について 2.障害の定義	
第2回	精神障害者と社会	精神障害者の処遇の歴史	
第3回	国際生活機能分類(ICF)	ICFの解説と精神障害者のICFとの対応	
第4回	リハビリテーションのキーワード	ノーマライゼーション 共生社会	
第5回	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの定義・歴史・現状	
第6回	精神科リハビリテーションの概念	精神科リハビリテーションの定義・歴史・現状	
第7回	精神科リハビリテーションにおける 精神保健福祉士の役割	1.リハビリテーションと社会福祉 2.精神保健福祉士の役割	
第8回	精神科リハビリテーションにかかわる 専門職の連携	1.各種専門職についての解説 2.連携についての基礎知識	
第9回	精神科リハビリテーションの対象	1.精神障害者の法律的定義 2.精神障害者の特性	
第10回	精神科リハビリテーションにかかわる 専門職	1.チーム医療 2.精神科リハビリテーションチーム	
第11回	精神科リハビリテーションサービスの 実施機関	1.リハビリテーションサービスの歴史 2.障害者総合支援法と精神障害者	
第12回	精神科リハビリテーション の基本プロセス	1.アセスメント　　2.計画 3.実施　　4.評価	
第13回	精神科リハビリテーションの展開	精神科病院・社会復帰施設・地域におけるリハビリテーション	
第14回	疾病の経過 ライフサイクルとリハビリテーション	疾病の経過 各年代の課題とリハビリテーション	
第15回	まとめ	本授業の振り返り	

評価方法及び評価基準	授業の参加態度50点、試験50点 出席について：遅刻２回で欠席１回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。
教材教科書参考書	教科書 ・精神保健福祉士養成セミナー5 　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　第6版 　日本精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編　へるす出版　2017
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように

科目名	精神科リハビリテーション学B	科目コード	W33020	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内　隆生		授業形態	講義		単独

授業の概要	精神科リハビリテーションについて、具体的な実施方法について学習する。リハビリテーションの具体的な技法を通して、利用者のニーズに対応した援助・支援プログラムを企画実施するための基本的な考え方を学ぶとともに、精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割・多職種協働のあり方等について理解を深める。
到達目標	①精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術が理解できる。 ②多職種連携における精神保健福祉士の役割が理解できる。 ③地域リハビリテーションの構成が理解できる。 ④ケアマネジメントの基本的考え方と活用法が理解できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション 前期のまとめ	1.授業の進め方 2.精神科リハビリテーション学Aのまとめ	
第2回	作業療法	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第3回	レクリエーション療法	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第4回	集団精神療法	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第5回	認知行動療法	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第6回	心理教育	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第7回	チームアプローチ	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第8回	デイケア	定義、構造、歴史、基本的考え方	
第9回	居住支援	意義、歴史、現状、将来の課題	
第10回	就労支援	意義、歴史、現状、将来の課題	
第11回	地域支援とネットワーキング	意義、歴史、現状、将来の課題	
第12回	仲間による地域生活支援	意義、歴史、現状、将来の課題	
第13回	コ・プロダクション	意義、歴史、現状、将来の課題	
第14回	精神保健ボランティア	定義、展開、役割と機能、育成、将来の課題	
第15回	まとめ	授業の振り返り	

評価方法及び評価基準	授業の参加態度50点、試験50点 出席について：遅刻２回で欠席１回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。
教材 教科書 参考書	教科書 ・精神保健福祉士養成セミナー5 　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　第6版 　日本精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編　へるす出版　2017
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように

科目名	社会福祉実習指導Ⅰ	科目コード	W34101	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	柘植 秀通・佐藤眞一・立花茂樹		授業形態	講義	クラス分	
	社会福祉士指定科目	必修							

授業の概要	[キーワード：実習機関・施設・地域の理解、福祉実習に臨む心構え] 前期は、「ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際」をテーマに，ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の主な業務・サービス内容、福祉実習の内容と実習に向かう心構えなどを学ぶ。 後期は、社会福祉士とソーシャルワーカーの関係，社会福祉士の新たな役割と機能，実習先施設の範囲と施設の特徴を生かした実習内容と形態，実習スーパービジョン等に関する講義及び実習報告会への参加等を通して実習に対する目的意識を高める。
到達目標	1　実習先である現場の状況と、そこにおけるソーシャルワーカーのあり方について理解する。 2　次年度実習に向かうまでに身につけるべき技能，倫理や資質を高めるために自身の学ぶべき課題等を把握する。 3　福祉実習の目的を理解し，実習に向かう意欲を高める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション 相談援助実習ガイドライン１	授業内容の概要の説明。 援助実習のガイドラインを通して、学ぶべき内容の概略を知る	一斉	第16回	オリエンテーション	後期の授業に関する内容の紹介。	一斉
第2回	相談援助実習ガイドライン２	援助実習のガイドラインを通して、学ぶべき内容の概略を知る	一斉	第17回	ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰとしての社会福祉士	社会福祉士とソーシャルワーカーの関係、新たな役割と機能、	グループ
第3回	実習機関・施設・地域の理解	実習先施設・機関の概要と根拠法規及び社会福祉士の業務の理解	グループ	第18回	実習の場と形態	フィールドＳＷとレジデンシャルＳＷ実習、第１次分野と第２次分野、実習の形態	グループ
第4回	予習レポート，振り返りシートの作成	記載例を用いて，記載すべき内容，記述上の留意点と評価規準等を確認する。	グループ	第19回	契約関係の中にある実習	実習契約関係の理解、実習施設・機関におけるリスクマネジメント、契約書	グループ
第5回	外部講師による講義１	高齢者分野における実習１ 特別養護老人ホーム	一斉	第20回	実習スーパービジョンの理解	スーパービジョン概論、実習スーパービジョン関係の理解	グループ
第6回	外部講師による講義２	高齢者分野における実習２ 地域包括支援センター	一斉	第21回	実習報告会にむけて	実習報告会参加における諸注意とレポート作成等について	一斉
第7回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループ	第22回	実習報告会１	実習報告会に参加し、積極的に質問を行い疑問点の解消を図るとともに，自身の今後の取組むべき課題を把握する	グループ
第8回	外部講師による講義３	障害者分野における実習１ 障害者支援施設	一斉	第23回			
第9回	外部講師による講義４	障害者分野における実習２ 障害者相談支援事業	一斉	第24回			
第10回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループ	第25回	振り返り	「報告を通して学んだこと、残された疑問」を中心に発表・協議する	グループ
第11回	外部講師による講義５	児童分野における実習 児童養護施設	一斉	第26回	実習報告会２	実習報告会に参加し、積極的に質問を行い疑問点の解消を図るとともに，自身の今後の取組むべき課題を把握する	グループ
第12回	外部講師による講義６	社会福祉協議会における実習	一斉	第27回			
第13回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループ	第28回			
第14回	外部講師による講義７	医療分野における実習	一斉	第29回	振り返り	「報告を通して学んだこと、残された疑問」を中心に発表・協議する	グループ
第15回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループ	第30回	まとめ	社会福祉実習に向けて	一斉

評価方法及び評価基準	○外部講師の講義に対するレポート50%、グループ授業の予習・振り返り及び報告会レポート50%で評価する。 ・外部講師の講義・報告会のレポートについては、基準を印刷・配布し、教員の合意で評価する。 ・グループ授業における予習・振り返り及び報告会レポートについても、上記基準を準用し，各教員が評価する。
教材教科書参考書	教科書：日本社会福祉士養成校協会 監修　白澤政和他 編(2014)『社会福祉士　相談援助実習　第2版』中央法規 参考書：一般財団法人厚生労働統計協会　編（2017）『国民の福祉と介護の動向　2017/2018』一般財団法人厚生労働統計協会
留意点	○前期の授業における成績が60%の点数に満たない学生については面接を行う。 ○授業においては、積極的な質問・発言、共同作業を求める。能動的学習姿勢での参加を期待する。 ○レポートの提出においては，指定された日時，様式を守ること。

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ	科目コード	W34201	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択 社会福祉士指定科目　必修	担当者名	松本　郁代・小川　幸裕・高橋　和幸・丸山　龍太			授業形態	講義		クラス分

授業の概要	[キーワード：準備、計画、実践、振り返り　　] 実習期間を中心として、実習への備えとしての計画･準備から始まり、実習後の振り返りにおいて、学ぶべき内容を深める。
到達目標	①実践の場に出て、自らの不足を理解し、必要な改善を行えるようになる。 ②利用者個々の尊厳を理解し、その尊厳を尊重する意志を持つようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	実習の意義目的の理解、受講上の諸注意 等を配布書類をもとに確認する	合同	第16回	オリエンテーション	①後期スケジュールの確認　②実習報告会についての確認　③個人総括書の作成についての確認を行う	合同
第2回	事前学習１	①実習計画書の作成指導　②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠）	グループ	第17回	実習振り返り１	実習事後指導を行う　①グループで振り返り　②個人総括書の作成　③個別スーパービジョン	グループ
第3回	事前学習２	①実習計画書の作成指導　②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠）	グループ	第18回	実習振り返り２	実習事後指導を行う　①グループで振り返り　②個人総括書の作成　③個別スーパービジョン	グループ
第4回	事前学習３	①実習計画書の作成指導　②事前学習を行う（施設・機関の対象者）	グループ	第19回	実習振り返り３	実習事後指導を行う　①グループで振り返り　②個人総括書の作成　③個別スーパービジョン	グループ
第5回	事前学習４	①実習計画書の作成指導　②事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）	グループ	第20回	実習報告準備１	実習報告会に備え準備を行う　①レジメの作成等	グループ
第6回	事前学習５	①実習計画書の作成指導　②事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）	グループ	第21回	実習報告準備２	実習報告会に備え準備を行う　①レジメの作成等	グループ
第7回	事前学習６	①実習計画書の作成指導　②実習前に抱えた課題等を確認する	グループ	第22回	実習報告準備３	実習報告会に備え準備を行う　①レジメの作成等　②当日の役割分担の決定（司会・タイムキーパー・書記）	グループ
第8回	事前学習７	①実習計画書の作成指導　②実習時のスーパービジョンについて理解を深める	グループ	第23回	実習報告会１	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループ
第9回	実習準備１	①実習計画書の作成指導　②事前打ち合わせの意義、目的等を確認する	グループ	第24回	実習報告会２	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループ
第10回	実習準備２	①実習計画書の作成指導　②実習日誌の記載法の留意点等を確認する	グループ	第25回	実習報告会３	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループ
第11回	実習準備３	①実習計画書の作成指導　②事前学習を行う（施設・機関の対象者）	グループ	第26回	実習報告会４	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループ
第12回	実習準備４	①実習計画書の作成指導　②事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等）	グループ	第27回	実習報告会５	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループ
第13回	実習準備５	①事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等）　②訪問指導の目的、内容を理解する	グループ	第28回	実習報告会６	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループ
第14回	実習準備６	①事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等）　②実習上の諸注意を確認する	グループ	第29回	実習総括書最終作成	個人総括書の修正、完成を図る	グループ
第15回	実習準備７	①事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等）　②実習上の諸注意を確認する	グループ	第30回	振り返り	1年間のまとめを行う	グループ

評価方法及び評価基準	実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。 なお、第1回ガイダンスで各種提出書類(個人調書・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書)の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。
教材 教科書 参考書	長谷川匡俊・上野屋加代子・白澤政和 他編（2014）『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ミネルヴァ書房編集部編（2018）『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するように。

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅰ	科目コード	W35004	単位数時間	1単位 15時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目　選択 精神保健福祉士指定科目　必修	担当者名	葛西　久志			授業形態	講義		単独
授業の概要	精神保健福祉実習の意義・目的について理解しながら、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。ここでは、精神保健福祉実習の事前学習として精神障害者の様々な問題に取り組む。そして、精神保健福祉の援助・支援に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際的に理解できるよう学生自ら調べ説明する。そして、さらに、教員からの助言と地域からゲストスピーカーを招聘して概説していただく。								
到達目標	本科目は、精神保健福祉実習の事前学習として、精神保健福祉の援助に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際的に理解できるよう学生自ら調べ報告する。また配属実習先施設・機関等を体系的に理解しながら実習に臨む基礎的実力を身につける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、実習の意義・目的の説明、他	
第2回	精神障害者の問題　こころの病気について	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第3回	精神障害者の問題　精神病は遺伝するか	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第4回	精神保健福祉実習懇談	実習した先輩との懇談	
第5回	精神障害者の問題　精神病の治療とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第6回	精神科病院見学	精神科病院、デイケアセンター、グループホームの見学	
第7回	精神障害者の問題　精神障害者の強制入院	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第8回	精神障害者の問題　ＷＲＡＰとは	ゲストスーピカ―を招聘し、精神科リハビリについて学ぶ	
第9回	精神障害者の問題　電気けいれん療法とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第10回	精神障害者の問題　精神保健福祉法とは	学生3名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第11回	精神障害者の問題　精神障害者が当たり前に暮らすとは	学生4名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第12回	精神障害者の問題　こころの病気について	学生5名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第13回	精神障害者の問題　精神障害者と差別	学生6名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第14回	精神障害者の問題　家族の活動は	学生7名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第15回	精神障害者の問題　薬との付合い方ついて	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	

評価方法及び評価基準	出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。レジュメ作成・報告（50%）と、レポート課題（50%）で評価する。毎回のテーマの下調べした内容とプレゼンを評価する。また、レポート課題は指定本を読み、どの程度理解したか評価する。
教材教科書参考	①精神保健福祉実習の手引き（配布予定） ②山本深雪、他（2005）「知っていますか？精神障害者問題一問一答」解放出版社
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44105	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	石田　和男			授業形態	演習		単独
授業の概要	[キーワード：他者性、動物性、形而上学批判]これまでの認識論は圧倒的に形而上学的伝統に従っていた。人間中心主義は20世紀なかばまで支配的。実にそれが科学的方法論においてもそうである。本稿は、動物性という観点から認識論的転倒の試みを行う。								
到達目標	テーマそれ自体に関する理解にとどまらず、それをいかに掘り下げ、再構成し、伝えられるかといった方法論をめぐっても、より精通することを目指す。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	訪問	動物学の世界観、環世界		第16回	ノロジカの出現	動物世界の何かに接触	
第2回	昼食の食卓にて	モザイクの問題；全体と部分		第17回	接近	人間と獣の間の限界	
第3回	あずまやにて	形式と意味、知覚標識		第18回	獣たちの場所	神々はそこにいる	
第4回	川原にて	パラ生物学的局面、環世界間交流		第19回	失われた内奥性	旧石器時代の絵	
第5回	ドラマとしての生	生存競争、向目的的変異		第20回	寓話からの解放	動物の思考	
第6回	役割、生の場面	ダーウインの進化論、生のドラマ		第21回	開かれた世界	闕の経験、脱人間中心主義	
第7回	館の池の畔にて	役割のための衣装、器官の身体		第22回	目を瞠る能力	アウラのシステム	
第8回	構成のトーン	生命のメロディー、構造化か総譜		第23回	形成をめぐって	リルケとハイデガー	
第9回	種の起源	存在形式全体の変容		第24回	考える人	テンプルムと鳥たち	
第10回	遠乗り	知覚と認識、シェ―マー意味信号		第25回	思考不可能なもの	「アントン・ライザー」の彷徨	
第11回	夕食の食卓にて	パブロフの反射、空間の勾配		第26回	動物たちの視覚	アホロートルとの出会い	
第12回	海辺のテラスにて	感覚能力、想像能力、論理能力		第27回	植物の形態	種子と果実という生	
第13回	二人の論戦	動物学者の象徴、生物学者の象徴		第28回	動物の形態	従属栄養生物の形態的展開	
第14回	第３日	シュペーマンの形成体		第29回	ロバのまなざし	カラヴァッジョの思考性の次元	
第15回	洞窟の比喩	人間の環世界		第30回	犬のまなざし	ピエロ・ディ・コジモのまなざし	

評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつのる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。
教材教科書参考書	『思考する動物たち』J・Cバイイ、出版館ブッククラブ。
留意点	ジャンルにとらわれない思考を獲得するのに格好の機会となるでしょう。 毎回、テーマに関する印象を絵や詩で表現する。そのための白紙のノート持参のこと。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44101	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	大野　拓哉			授業形態	演習		単独

授業の概要	各自が年間を通じて取り組みたいテーマを見つけ、発表し、討論を通じて一定の結論に到達できるようにする。　担当者の専門は法学（憲法学）であるから、社会福祉の専門的な知見を期待されても応えることは難しいかもしれないが、社会福祉の実践と密接に関わる人権論や、そもそもの学問としての論理性といった部分では、多少なりとも有益な関わりができるかもしれない。 履修者の人数次第だが、基本的には、毎回のレジュメ作成と発表を義務づけたい。また、単に、他人の発表の聞き役におさまることなく、積極的に質疑応答を重ねていくことも期待したい。司会等が履修者によって行われることも期待したい。
到達目標	テーマに関する表面的な理解で満足せずに、そこからどういった問題に派生していくか、どういう問題が解明できるかなどを根気よく追求する力を身につけることを目指す。喩えていえば、ゴールではなくスタートラインとなることを目指す。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ガイダンス	何を研究したいか？		第16回	課題の再検討	テーマの再検討	
第2回	ガイダンス	何を研究したいか？		第17回	課題の再検討	テーマの再検討	
第3回	課題の設定	テーマの設定		第18回	発表と討論	発表と討論	
第4回	課題の設定	テーマの設定		第19回	発表と討論	発表と討論	
第5回	課題の追求	論理の組み立て		第20回	発表と討論	発表と討論	
第6回	課題の追求	論理の組み立て		第21回	発表と討論	発表と討論	
第7回	発表と討論	発表と討論		第22回	発表と討論	発表と討論	
第8回	発表と討論	発表と討論		第23回	発表と討論	発表と討論	
第9回	発表と討論	発表と討論		第24回	発表と討論	発表と討論	
第10回	発表と討論	発表と討論		第25回	発表と討論	発表と討論	
第11回	発表と討論	発表と討論		第26回	発表と討論	発表と討論	
第12回	発表と討論	発表と討論		第27回	発表と討論	発表と討論	
第13回	発表と討論	発表と討論		第28回	発表と討論	発表と討論	
第14回	発表と討論	発表と討論		第29回	発表と討論	発表と討論	
第15回	総括	前期の振り返り		第30回	総括	年間の振り返り	

評価方法及び評価基準	特に試験等は実施しないが、主に各自の発表や討論への取り組みを評価の対象とする。
教材教科書参考書	特に指定しない。
留意点	特定の事柄について強い関心や豊富な知識を持っていることは要求しないが、何事についても問題意識が希薄な学生は履修を遠慮するのが得策かもしれない。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44102	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	葛西　久志			授業形態	演習		単独
授業の概要	障害者の人権（解放出版社）からテーマを取り上げ研究レポート作成し発表する。また、現場に出向き障害者や支援者と交流し、問題意識を高める。								
到達目標	専門演習を通してコミュニケーション力を養い、実践力を身につける。また、様々な問題について自己の考えをまとめ論述し、プレゼンテーションする方法を習得する。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	前期オリエンテーション	オリエンテーション（自己紹介+αなど）		第16回	後期オリエンテーション	夏季休業の振り返り、グループワーク	
第2回	グループワーク①	グループワークを行い、学生間のグループダイナミックスを理解する。		第17回	障害者の人権⑩　出生前診断の問題	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第3回	障害者の人権①　障害者とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第18回	障害者の人権⑪　聴覚障害者の支援とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第4回	障害者の人権②　障害者に関する法律	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第19回	障害者の人権⑫　視覚障害者の支援とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第5回	障害者の人権③　障害者就労の施策	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第20回	障害者の人権⑬　知的障害者の支援とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第6回	障害者施設見学①	就労継続支援施設の見学・レポート		第21回	障害者の人権⑭　精神障害者の支援とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第7回	障害者施設見学フィードバック	就労継続支援施設のふりかえり		第22回	グループワーク②	価値交流学習、困難事例を通して	
第8回	障害者の人権④　障害者の介助制度変遷	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第23回	障害者の人権⑮　障害者に対する虐待や差別とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第9回	障害者の人権⑤　障害児と健常児が共に学ぶことの大切さ	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第24回	障害者の人権⑯　障害者の権利獲得とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第10回	障害者の人権⑥　障害者の暮すグループホームとは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第25回	障害者の人権⑰　障害者人権の国際条約とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第11回	障害者の人権⑦　障害者に対する物理的バリアとは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第26回	障害者の人権⑱　障害者の日本における権利保障とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第12回	障害者施設見学②	グループホームの見学・レポート		第27回	グループワーク③	レクリエーション企画立案・実施	
第13回	障害者施設見学フィードバック	グループホームの見学のふりかえり		第28回	障害者の人権⑲　障害者の普通に生きるとは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第14回	障害者の人権⑧　障害者に配慮した街づくりの制度とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第29回	障害者の人権⑳　障害学とは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	
第15回	障害者の人権⑧　障害者生活支援センターとは	学生2名による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説		第30回	グループワーク④	障害者の人権についてレポート報告	

評価方法及び評価基準	出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。レジュメ作成・報告（70%）と、レポート課題（30%）で評価する。各テーマを事前学習し、課題を探しまとめ、自分自身の考えを導き出してプレゼンしたものを評価する。また最終的には障害者の人権についてレポートとしてまとめ報告したものも評価する。
教材教科書参考書	楠敏雄、他（2010）「知っていますか？障害者の人権一問一答」解放出版社
留意点	提出物の期限などを厳守する。障害者福祉サービス事業所、グループホームなどの見学を行う予定である。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44104	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	松本　郁代			授業形態	演習		単独
授業の概要	日本における社会福祉のあゆみのうち、社会事業と社会福祉の時期の理論について、文献を読む。その際、指定した文献に掲載されている引用文献等も検索し、講読する。								
到達目標	日本における社会事業理論・社会福祉理論について知る。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	社会福祉理論史について①	社会福祉理論を歴史的にみる		第16回	社会事業理論の成立①	社会事業対象論・社会事業行政論	
第2回	社会福祉理論史について②	大河内一男・孝橋正一・仲村優一		第17回	社会事業理論の成立②	海野幸徳・山口正・三好豊太郎の思想	
第3回	社会福祉理論史について③	社会福祉理論と社会福祉論		第18回	社会事業理論の成立③	社会連帯「左派」の社会事業論	
第4回	日本慈善・救済論の系譜①	日本仏教の慈善論		第19回	社会事業理論の成立④	唯物弁証法的社会事業論・ケースワーク論の導入とセツルメント論	
第5回	日本慈善・救済論の系譜②	近世儒学の救済論		第20回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論①	社会科学者の社会事業論	
第6回	産業革命期の社会改良・慈善事業論①	下層社会の調査研究、明治の救貧論		第21回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論②	戦時厚生事業論	
第7回	産業革命期の社会改良・慈善事業論②	明治期の社会改良論		第22回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論③	個別生活指導論・地域厚生事業論	
第8回	産業革命期の社会改良・慈善事業論③	留岡幸助の思想、近代的施設処遇論		第23回	戦後の社会事業論①	敗戦後の貧困研究	
第9回	帝国主義形成期の救済論①	貧困論・救済事業論		第24回	戦後の社会事業論②	孝橋正一・岡村重夫・竹中勝男	
第10回	帝国主義形成期の救済論②	井上友一・小川河次郎の思想		第25回	戦後の社会事業論③	行政関係者の社会事業論、社会事業の方法技術論	
第11回	帝国主義形成期の救済論③	宗教者の慈善・救済論		第26回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論①	生活論と貧困論	
第12回	大正デモクラシー期の社会事業論①	『貧乏物語』・『女工哀史』		第27回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論②	高度成長期の社会福祉論	
第13回	大正デモクラシー期の社会事業論②	大正期民主主義者の社会事業論		第28回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論③	真田是・一番ケ瀬康子・高島進	
第14回	大正デモクラシー期の社会事業論③	社会局官僚の社会事業論		第29回	現在の社会福祉理論①	社会福祉改革を巡って	
第15回	大正デモクラシー期の社会事業論④	宗教者の社会事業論、方面委員制度論・地域社会事業論		第30回	現在の社会福祉理論②	新政策論、社会福祉方法論の統合化	

評価方法及び評価基準	演習への参加度および平常点とレポートを３対１の割合で評価する
教材教科書参考書	吉田久一（1995）『日本社会福祉理論史』勁草書房
留意点	社会福祉発達史Ａ・Ｂを履修していることが望ましい。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44205	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	棟方　達也			授業形態	演習		単独

授業の概要	このゼミでは、社会福祉に関する直接的、専門的な内容は主題としていません。専門に扱うのはアウトドアスポーツです。情報収集や文献研究は勿論ですが、実技（実践）を重視し、アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学びます。 【対象となりうる主な種目】スノースポーツ、カヌー、シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング　等
到達目標	・年3回の実習全てに参加する。　・１つの活動を計画から実践を経て報告書にまとめあげ発表して完結させる。・専門演習Ⅱを目指す人は、卒業研究に向けてアウトドアスポーツに関するテーマの絞り込みをスタートする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	年間計画	季節に応じた種目選択と実施計画	受講者数を考慮	第16回	夏実習総括	報告書作成と発表(行動記録、データ等の整理、ppt.準備)	
第2回	アウトドアスポーツ実践の基礎	情報収集と情報の活用		第17回	秋実習のための基礎知識と情報収集１	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報　その他	
第3回	アウトドアスポーツ実践の基礎	アウトドア系専門用語（報告に向けた下調べ）		第18回	秋実習のための基礎知識と情報収集２	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報　その他	
第4回	アウトドアスポーツ実践の基礎	装備の活用と管理（報告に向けた下調べ）		第19回	秋実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段　その他	
第5回	アウトドアスポーツ実践の基礎	食材・食品の知識と活用（報告に向けた下調べ）		第20回	秋実習	［例］山岳活動、サイクリング、カヌー　等から１種目	
第6回	アウトドアスポーツ実践の基礎	現地情報とその分析		第21回			
第7回	アウトドアスポーツ実践の基礎	ロープワーク、安全対策　その他（報告に向けた下調べ）		第22回	秋実習総括	報告書作成と発表(行動記録、データ等の整理、ppt.準備)	
第8回	アウトドアスポーツ実践の基礎	読図＆コンパスワーク　その他（報告に向けた下調べ）		第23回	共通演習４	映像、画像の扱い方（データの収集）	
第9回	アウトドアスポーツ実践の基礎	各種計画法:食料、装備、行動その他		第24回	冬実習のための基礎知識と情報収集１	装備、安全対策　その他(必要に応じて事前実践学習)	
第10回	アウトドアスポーツ実践の基礎	障害と救急処置（反復練習）		第25回	冬実習のための基礎知識と情報収集２	用具と技術(必要に応じて事前実践学習)	
第11回	夏実習のための基礎知識と情報収集１	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報　その他(種目選択)		第26回	冬実習の計画と準備	種目、日程、装備、食事、交通手段　等について	
第12回	夏実習のための基礎知識と情報収集２	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報　その他		第27回	冬実習	スノースポーツ	
第13回	夏実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段、個別活動等について		第28回			
第14回	夏実習	［例］カヌー、シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング　等から１種目以上		第29回	冬実習総括	報告書作成と発表(行動記録、データ等の整理、ppt.準備)	
第15回				第30回	年間総括	全体の振り返り、補足及び専門演習Ⅱへ向けて	

評価方法及び評価基準	出席状況及び実習実施状況（３回の実習を全てクリアすること。夏休み中、社会福祉実習等で参加できない場合は、他の日程や内容で代替実施する場合もある。）：５０％　報告及び発表：５０％　　求められる内容を正しく理解し、指定された形式でまとめられているかを評価する。活動への積極性を重視する。
教材教科書参考書	種目により、必要に応じてその都度、指定または提供する。
留意点	内容が特殊であるので、登録前に必ず面談し適性や内容の確認をすること。土日や長期休業期間を利用した学外活動が多く、交通費や装備費等の実費負担も相応にあります。アウトドアと運動が好きであれば、性別、経験、運動能力は問いません。但し、喫煙者お断り。 **１～２年次において、スポーツ科学実技の中の指定科目（シラバスの「授業の概要」参照）を１つ以上受講していることが望ましい。**

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44202	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	北村　繁			授業形態	演習		単独

授業の概要	［キーワード：　地理学、地形学・火山灰編年学　］ 地理学、地形学または、火山灰編年学のいずれかの分野で、学生自らテーマを設定し、そのテーマのもとで、基礎的な知識を深めながら、調査・分析を進めていくために必要となる手法の修得をめざす。
到達目標	自ら設定したテーマについて、購読などを通じて、基礎知識、調査法、分析法を学ぶ。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	学習テーマの検討と文献収集①	自ら学習テーマについて検討し、また、それを深めるために読むべき文献を、講義時間外に収集してくる。 収集されたもののなかから、グループで読んでいく文献を選び、読む順序などを検討する		第16回	文献購読または調査・分析計画①	文献購読を続ける場合は第4～14回と同様。第１～15回の学習をもとに調査や分析を行う場合は、その計画について検討する	
第2回	学習テーマの検討と文献収集②			第17回	文献購読または調査・分析計画②		
第3回	学習テーマの検討と文献収集③			第18回	文献購読または調査・分析計画③		
第4回	文献購読①	選んだ文献について、グループで分担して内容をレジメにまとめ、用語等を調べてきた上で、グループ内で発表し、質疑応答を行うことを通じて、内容の理解と技能修得をはかる		第19回	文献購読または調査・分析作業①	第4～18回と同様に文献購読を続ける。または、第16～18回で検討した計画に従って、調査・分析を試行し、結果をレポートにまとめてみる	
第5回	文献購読②			第20回	文献購読または調査・分析作業②		
第6回	文献購読③			第21回	文献購読または調査・分析作業③		
第7回	文献購読④			第22回	文献購読または調査・分析作業④		
第8回	文献購読⑤			第23回	文献購読または調査・分析作業⑤		
第9回	文献購読⑥			第24回	文献購読または調査・分析作業⑥		
第10回	文献購読⑦			第25回	文献購読または調査・分析作業⑦		
第11回	文献購読⑧			第26回	文献購読または調査・分析作業⑧		
第12回	文献購読⑨			第27回	文献購読または調査・分析作業⑨		
第13回	文献購読⑩			第28回	文献購読または調査・分析作業⑩		
第14回	文献購読⑪			第29回	文献購読または調査・分析作業⑪		
第15回	中間まとめ	第１～14回を振り返るとともに、第16回以降の計画について検討する		第30回	まとめ	全体を振り返り、卒論のテーマを遠望してみる	

評価方法及び評価基準	担当箇所の発表、毎回の口頭試問、レポートなどを、総合的に評価する。 担当した箇所について調べて発表すること、質問に答えること、課題を提出することだけでなく、わかりやすい表現の工夫や質問されたところへの適切な応答なども必要となる。
教材教科書参考書	テーマ設定後にそれにあわせて選ぶ
留意点	１．４年生での専門演習Ⅱの履修を前提とする。 ２．地理学に関する基礎知識（地図が読める、パソコンの操作ができる、など）を必要とするので、地理学関連科目を未履修の場合、履修登録の前に、必ず相談に来ること。 ＜参考＞過去に購読した書籍： 『火山噴火と災害』（宇井忠英・1997・東京大学出版会）、『災害ボランティア読本』（伊永勉・1998、小学館）、『災害救助（改訂増補版）』（竹内吉平・2004・近代消防社）、『災害情報と社会心理』（廣井脩・2004・北樹出版）、『地震の揺れを科学する』（山中宏明ほか・2006・東京大学出版会）、『津波災害―減災社会を築く―』（河田惠昭・2010・岩波書店）、『液状化現象－巨大地震を読み解くキーワードー』（國生剛治・2009・鹿島出版会）。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44203	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　必修	担当者名	西東　克介			授業形態	演習		単独

授業の概要	［キーワード：テーマの決定、目的/手段のヒエラルキー］ ・ゴールデン・ウイークあけまでに、自らが研究するテーマを決定。 ・そのための発表を行い、教員・ゼミ生が情報交換をして、ゼミ生がテーマを決定。 ・テーマは西東の専門である「政治学」「行政学」「教育行政」以外でも、西東による指導・助言が可能なものならよい。
到達目標	・学生が関心のある問題について、学生自身が調べ、まとめ、発表する能力を身につけていく努力。 ・原則として同じテーマの範囲（目的/手段のヒエラルキーの応用）で発表し続けます。 ・最後に、発表し続けたものを一つにまとめて提出。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	専門演習Ⅰの概要説明	学生が発表するテーマの決め方		第16回	論文の章立てについて	目的/手段のヒエラルキーを使い、タトル、章、節の関係を解説。	
第2回	インターネットからの情報について	インターネットからの情報収集と注意点		第17回	論文の展開について	ゼミ生の発表から展開について考えていきます。	
第3回	新聞の利用について	スマホから新聞社の記事を読みます。インターネットでは、購入をしない限り、すべての記事にはアクセスできません。できればときどき自宅や図書館の新聞の全体にふれてみよう。いかなる記事から新聞が構成されているのかを見てみよう。		第18回	引用の方法と注について	引用の方法と注の付け方を説明。	
第4回	「雑誌」論文と学術論文	「雑誌」論文と学術論文の違いを考えよう。		第19回	参考文献について	参考文献の	
第5回	インタビューについて	インタビューは質的調査の重要な手段です。しかし、聞く側の主観が絡む問題があります。		第20回	「　」と『』について	社会科学における使い方の説明	
第6回	アンケートについて	アンケートは量的調査の重要な手段です。しかし、そこから、詳細な、あるいは人間的な側面が見えないという問題があります。		第21回	意味を含ませる「　」と傍点	会話表現を示す「　」ではなく、使用する言葉にあえて「　」をつける場合を考えます。	
第7回	「新書」について	「新書」を出版する会社が増えました。手ごろな価格でありがたいのですが、本のタイトルが売れるようにつけられたものが多くなっているのではと感じます。		第22回	段落について	日本語や外国語の文章にある段落について考えてみます。	
第8回	学術書と大学の教科書	学術書と大学の教科書は、教科書によっては異なる部分があります。教科書といえども、学術書として使ってよいものもありますが、試験対策のための「ハウ・ツー」本になっているものもあります。		第23回	句読点について	文章の句点の付け方は簡単ですが、読点の付け方は簡単ではありません。読点の付け方を考えます。	
第9回	目的/手段のヒエラルキーと組織	H.A.サイモンの目的/手段のヒエラルキーは、組織を設計する際に使えます。また、組織内ユニット内の小さなユニットを作る際にも使えます。		第24回	長期に渡る文章作成の意義	文章を作っている人たちに初めから上手に書くことができる人は稀だと思い増す。書かざるを得ないから、書きたいから書き続けて上達していくのではないでしょうか。	
第10回	目的/手段のヒエラルキーと政策	同様に、政策を立案していく際にも使えます。		第25回	私の大学院研究室での論文作成の経験	自分で選んだテーマで初めて書く論文は「未知との遭遇」です。初めから展開や答えがわかっているとしたら、これくらいつまらないものはないのではないでしょうか。このような体験話です。	
第11回	目的/手段のヒエラルキーと目次	同様に、長い文章のタイトルと目次の作成にも使えます。		第26回	私の大学院研究室での論文作成の経験２	周囲の助言に耳を傾けつつ、自分の判断力がとても重要です。その体験話です。	
第12回	目的/手段のヒエラルキーと人生	同様に、自分の人生設計を作る際にも使えます。		第27回	私の大学院時代の先輩・後輩の関係	良き先輩と関係を丁寧に築き上げていくことが、重要です。その体験話です。	
第13回	西東ゼミの研究発表について	学生の研究発表がほぼ計画通りに進んでいるかを確認		第28回	私の学内他研究科講義の聴講経験	自らが求めている知識は自らの専門領域を少し超えているかもしれません。このことについて考えてみます。	
第14回	弘大某ゼミ卒論発表会参観について	毎年２月に弘大某ゼミ卒論発表会に私とゼミ生の一部が参加させてもらっています。		第29回	ゼミ生による専門演習Ⅰで学んだ意義１	ゼミ生にこの１年間で学んだことについてまとめてもらいます。	
第15回	夏休み以降の実習について	ゼミ生に対する実習への激励		第30回	ゼミ生による専門演習Ⅰで学んだ意義２	同上。	

評価方法及び評価基準	短縮論文（100%）　文章構成と論理性で評価
教材教科書参考書	教科書は、自分で選び買ってください。１年時に買ったものでも結構です。
留意点	専門演習Ⅰの希望者は、本演習が終わる年度までに、少なくとも「政治学A」「政治学B」の履修をしておいてください。できれば単位習得を望みます。上記の授業内容は、演習の時間の中でわずかな時間があいたときに、教員が学生に説明を心掛けるものです。よって、授業の中心は、学生が調べて研究したものを発表し、これを全員で質疑応答を重ねていきます。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44201	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	小川　幸裕			授業形態	演習		単独

授業の概要	［キーワード：ソーシャルワーク、社会福祉士、独立型社会福祉士、権利擁護］ ソーシャルワーク、独立型社会福祉士、社会福祉士、権利擁護に関する文献を講読する。毎回、担当者を決め担当箇所のレジメを作成する。作成したレジメをもとに報告を行い、それについて全体で討論する。
到達目標	（１）　ソーシャルワークに関する文献を読むことができる。 （２）　社会福祉士の活動について説明できる。 （３）　社会課題の背景と構造についてソーシャルワークの視点から説明できる。 （４）　社会課題への対応についてソーシャルワークの視点から説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	１）演習授業の進め方の説明 ２）グループワークの心構え		第16回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第2回	独立型社会福祉士の活動	１）レジメの報告 ２）全体討論		第17回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第3回	独立型社会福祉士の活動	１）レジメの報告 ２）全体討論		第18回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第4回	独立型社会福祉士の活動	１）レジメの報告 ２）全体討論		第19回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第5回	独立型社会福祉士の活動	１）レジメの報告 ２）全体討論		第20回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第6回	独立型社会福祉士の活動	１）レジメの報告 ２）全体討論		第21回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第7回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第22回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第8回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第23回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第9回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第24回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第10回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第25回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第11回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第26回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第12回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第27回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第13回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第28回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第14回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第29回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	
第15回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論		第30回	文献購読、報告および議論	１）レジメの報告 ２）全体討論	

評価方法及び評価基準	レジュメ作成50%、報告50% レジメの作成は、ソーシャルワークおよび独立型社会福祉士に関する先行研究の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などを総合的に評価する。 報告は、発言頻度やその内容を評価する。
教材教科書参考書	テーマの設定後に決定する。
留意点	卒業論文の執筆に向けて、自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。また、社会福祉士に関する活動の見学および各種イベントや研修会に参加する場合もある。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44303	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	藤岡　真之			授業形態	演習		単独

授業の概要	大学で身につけるべき重要な力は論理的に思考する力である。若い時期に養った論理的な思考力は、学生生活を終えて以降も様々な場面で必ずやあなたを助けることだろう。論理は言葉から成り立つのであるから、まず言葉を大切にしなければならない。言葉の習熟に効果的であるは、しっかりと文章を読み、文章を書くトレーニングをすることである。本演習では、このような考えに基づいて以下のことを行う。 【前期】社会学系の文献の講読（犯罪・非行問題、地域社会・ネットワークのいずれかの分野） 【後期】自らの関心に基づいて設定したテーマについて、小論文を作成する
到達目標	・文章を読む力をつける ・自分の関心を掘り下げ、問いを設定できるようになる ・論理的な文章を書けるようになる

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第17回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第18回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第19回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第20回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第21回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第22回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第23回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第24回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第25回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第26回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第27回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	
第13回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第28回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	
第14回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第29回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	
第15回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする		第30回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する	

評価方法及び評価基準	授業への参加度、報告、小論文を総合的に評価する
教材教科書参考書	前期に講読する文献は開講時に決める
留意点	

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44302	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	柘植　秀通			授業形態	演習		単独
授業の概要	児童福祉において、遊びという要素は、年齢・障害のあるなしを問わず重要です。この授業では、そうした遊びについて、地域の子どもたちと実際の交わりを通して経験していくことを中心とする。その経験を通して、さらに理論構築もできるように努める。また、他の団体が行う子どもとの交わりのプログラムにも参加する予定であるので、特に他の団体の方々との交わりや、計画への参加も行う。								
到達目標	福祉施設の子どもたちの遊び指導において、実際に活動できるだけの知識と技能を身につける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	授業の概要紹介		第16回	遊び指導１３	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	
第2回	相互交流	グループで、ゲーム等を通して、まず学生同士が交流を行う。		第17回	遊び指導１４	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	
第3回	遊び指導１	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第18回	遊び指導１５	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	
第4回	遊び指導２	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第19回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	
第5回	遊び指導３	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第20回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	
第6回	遊び指導４	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第21回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	
第7回	遊び指導５	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第22回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	
第8回	遊び指導６	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第23回	遊びの会1回目	焼き芋会などの会を開催する。	
第9回	遊び指導７	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第24回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	
第10回	遊び指導８	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第25回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	
第11回	遊び指導９	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第26回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	
第12回	遊び指導１０	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第27回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	
第13回	遊び指導１１	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第28回	宿題の会　開催	地域の町内会さんと協働で、宿題の会を行う。	
第14回	遊び指導１２	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する		第29回	振り返り	一年の振り返りを行う	
第15回	振り返り	前期を振り返り、遊びの意味について考察する。		第30回	振り返り	一年の振り返りを行う	

評価方法及び評価基準	授業への参加度５０％。実績５０％。実績は、児童たちとの関わりの中で、どれだけ積極的に関係を築き、意図的に関与していたかを評価。また、その振り返り等において、どれだけ改善への意欲と分析を行えたかにおいて評価する。
教材教科書参考書	特になし。
留意点	児童と直接に交わって遊ぶ機会を作ります。まず、何よりも真剣に児童と遊び、積極的に考えることが出来るようにすることを求めます。特に、子どもたちと交わろうとの意欲のない（能力不足による関わりの少なさは対象としません）学生については、年度途中でも授業への参加を拒否しますので、注意してください。また、遊びの会を土曜日や休日に、できれば2～3回行いたいと思いますので、土曜日・休日にも出てくることが可能な人が来てください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44304	単位数時間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　必修	担当者名	立花　茂樹			授業形態	演習		単独

授業の概要

[キーワード：障害のある児童生徒の学びと指導、特別支援教育、卒業論文のための準備]

障害のある児童生徒を取り巻く様々な現実と特別支援教育の抱える課題等を捉える。次いで、学生自身の抱く疑問や関心ある事項をテーマに、卒業研究に向けた学びを深めてゆく。

前期では障害児、特別支援教育に関する文献講読を中心に行い、後期では研究法の基礎を学びつつ学生自身の設定したテーマを追究し、成果をレポートにまとめ、発表することを目指す。

到達目標

1　障害のある児童生徒を取り巻く現状と特別支援教育の抱える課題を理解し、自身のテーマ設定に生かす。
2　研究の考え方、方法、報告の仕方等を習得し、レポートの作成、発表を行う。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	・演習の進め方について説明 ・学生自身の関心あるテーマの発表		第16回	個人テーマの追究	・研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う(1)	
第2回	文部科学省通知や中央教育審議会報告に見る「特別支援教育」	・特別支援教育の推進について（通知）及び共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）を読み、特別支援教育の理念や基本的枠組み等の理解と、今後の特別支援教育の在るべき姿について考える		第17回			
第3回				第18回		・テーマ追究の進捗状況の報告と意見交換を行う(1)	
第4回				第19回		・研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う(2)	
第5回	特別支援教育の実践記録を読む	・『「みんなの学校」が教えてくれたこと―学び合いと育ち合いを見届けた3290日―』を読み、インクルーシブ教育システムの構築について考える		第20回		・テーマ追究の進捗状況の報告と意見交換を行う(2)	
第6回				第21回		・研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う(3)	
第7回				第22回			
第8回				第23回	レポート作成	・研究成果のまとめとレポート作成を行う	
第9回	実践報告等の文献検索・講読	・学生個々の関心ある事項に関する実践報告等を文献検索し、講読・討論する		第24回		・レポート概要の報告と協議を行う(1))	
第10回				第25回		・レポートを修正する	
第11回				第26回		・レポート概要の報告と協議を行う(2)	
第12回	特別支援教育の現状と課題	・特別支援教育の現状と課題を整理し研究課題を考える		第27回		・レポートの最終稿を作成する	
第13回	学生個々の抱く関心の探求	・各自の追究テーマと研究計画を構想する		第28回	発表会準備	・プレゼンテーション資料の作成と発表リハーサルを行う	
第14回		・個人テーマと研究計画を発表し、 意見交換をする(1)		第29回	発表会	・研究成果発表と質疑応答を行う	
第15回		・個人テーマと研究計画を確定する		第30回	全体まとめ	・研究発表の反省と全体まとめを行う	

評価方法及び評価基準

○演習への参加状況 50%、レポート・発表 50%で評価する。
・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力、情報活用能力などを中心に評価する。
・レポートは、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性などから評価する。
・欠席は１回につき５点を減ずる。

教材教科書参考書

○教科書：木村泰子（2015）『「みんなの学校」が教えてくれたこと―学び合いと育ち合いを見届けた3290日―』小学館
その他、研究方法やレポートの執筆方法等については、適宜資料を配布する。

留意点

○授業時間外も出来るだけ、メンバー間の討議や教員との相談を密にして、課題追究を行うように心がけてほしい。
○発表等の担当部分については、責任をもって協議資料を作成すること。
○予習：指定された資料を図書やインターネット等を利用して検索し、事前に目を通し自分の意見をまとめておくこと。
○復習：授業で出された課題や疑問点について、積極的に解決に努めること。

科目名	専門演習Ⅰ	科目コード	W44305	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	3年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　　必修	担当者名	丸山　龍太			授業形態	演習		単独

授業の概要	[キーワード：　貧困、スティグマ、生活保護] 専門演習Ⅰでは、履修者自ら卒業論文執筆に向けてのテーマの設定を行い、研究活動を行う中で、考察を深めることを目的とする。私は、キーワードに記した分野を研究領域としている為、これらに関心のある方を特に歓迎したい。
到達目標	自らが興味関心のある社会福祉学に関する事柄から研究テーマを設定し、その発表と討論、その後、再テーマ設定と再発表、再討論を繰り返す。この繰り返しから、お互いに社会福祉学の現状と課題に関し理解と考察を深めることができることを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	専門演習を始めるにあたってのオリエンテーションを行う		第16回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う	
第2回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する		第17回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う	
第3回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する		第18回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第4回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する		第19回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第5回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する		第20回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第6回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第21回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第7回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第22回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第8回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第23回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第9回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第24回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第10回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第25回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第11回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第26回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第12回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第27回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	
第13回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第28回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	
第14回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する		第29回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	
第15回	前期の振り返り	これまでの研究成果を踏まえ、後期に向けた課題を整理する		第30回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	

評価方法及び評価基準	試験は実施しない。各自の発表、討論の取り組み状況等、平常点100%で評価する。 自ら課題を設定し研究を進めることとなるので、主体的な行動が求められる。主体的な行動が難しい場合、再履修となる可能性が高まる。
教材教科書参考書	各自、必要に応じて適宜指示する。
留意点	予め、この科目の履修に関する相談のない者が履修登録した場合、履修を認めない場合があるので注意すること。